

平成24年度

# 入学者選抜要項



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学

# 求める学生像（アドミッション・ポリシー）

## 【教育学部】

私たちの教育学部では、次のような人を求めています。

- 変化の激しい社会を主体的に生き、よりよい社会の創造に貢献できる人々を育てる教師や指導者をめざす人
- 学校教育、環境教育に高い関心を持ち、教育の諸問題に自ら積極的に取り組む意欲や熱意のある人
- これらの課題の追究や解決に必要な幅広い基礎的知識、論理的思考力・コミュニケーション能力、豊かな感受性を備えた人

## 【経済学部】

滋賀大学経済学部は、学部の教育理念・目標に基づき、次のような人を求めています。

- 経済・社会問題に関心を持ち、かつ本学部で学ぶために必要な基礎的知識と、論理的思考力・読解力、コミュニケーション能力・表現力を備えている人
- みずから課題を見出し、本学部の多様な科目・履修コースを主体的に選択して、問題探求能力を高めようとする意欲をもった個性豊かな人
- 大学で修得した専門知識と教養を活かし、卒業後、積極的に国際社会・地域社会に貢献しようという意志をもった人

## 平成24年度入学試験の主な変更点

今年度入学者選抜方法の前年度からの主な変更点は次のとおりです。

### 【教育学部】

- 情報教育課程の募集を停止し、学校教育教員養成課程への再編統合を計画しています。このことに関しては、次ページ「教育学部の改組計画について（お知らせ）」を参照ください。
- 平成24年度大学入試センター試験から、出題科目の選択範囲等が変更されることに伴い、大学入試センター試験利用教科・科目を一部変更します。
- 一般入試後期日程の小論文の試験時間を10:00～12:00に変更します。
- 実技検査（美術）の実施検査項目の内容を変更します。〔一般入試前期日程及び推薦入試（一般）・帰国子女入試〕

### 【経済学部】

- 平成24年度大学入試センター試験から、出題科目の選択範囲等が変更されることに伴い、大学入試センター試験利用教科・科目を一部変更します。

## 教育学部の改組計画について（お知らせ）

滋賀大学教育学部では、平成24年4月から情報教育課程の募集を停止し、以下のとおり学校教育教員養成課程、環境教育課程の入学定員を変更することを計画しています。

なお、この計画は法令等の規定に基づき改組に必要な手続きを経て実施されるもので、あくまでも予定のため変更があり得ますので、今後発表予定の滋賀大学学生募集要項等にご留意ください。

### 1. 入学定員の変更（予定）について

課 程	入学定員
学校教育教員養成課程	220
環 境 教 育 課 程	20

### 2. 平成24年度入学者選抜について

改組確定後、入学者の選抜は改組後の2課程で実施します。本要項中、教育学部の記載については、すべて改組後の内容で記載していますが、出願にあたっては、詳細を「平成24年度滋賀大学学生募集要項」において必ず確認してください。

### 3. 改組後の各課程の募集人員

本要項1頁を参照ください。

### 4. 改組後の教育組織

改組後の教育組織は、学校教育教員養成課程3コース17専攻、環境教育課程1専攻となります。

詳細は裏面を参照してください。

改組後の教育組織

課程	コース・専攻・専修	
学校教育教員養成課程	初等教育コース	教育文化専攻 学校心理専攻 学校臨床専攻 幼児教育専攻 国際理解教育専攻 初等教科専攻（国語，社会，算数，理科，音楽，図画工作，体育，情報・技術，家庭，英語の各専修）
	中等教育コース	国語専攻 社会専攻 数学専攻 理科専攻 音楽専攻 美術専攻 保健体育専攻 情報・技術専攻 家庭専攻 英語専攻
	障害児教育コース	障害児教育専攻
環境教育課程	環境教育専攻	

# 目 次

I 募集人員	1
II 募集方法	2
III 一般入試	
1. 実施方式・日程・合格発表	5
2. 他大学及び本学学部間の併願	5
3. 出願資格	5
4. 出願期間	6
5. 入学者選抜方法等	6
6. 2段階選抜	6
別表1 入学者選抜方法等（一般入試，アドミッション・オフィス入試）	7
別表2 入学者選抜の実施教科・科目等について	9
別表3 教育学部で課する実技検査の概要	17
別表4 一般入試個別学力検査等の実施日程	19
別表5 合格発表	19
別表6 大学入試センター試験及び個別学力検査等配点表	20
別表7 経済学部一般入試制度の概要	22
IV 推薦入試等	
1. 推薦入試	24
2. 帰国子女入試	24
3. 社会人入試	24
別表8 入学者選抜方法等（推薦入試等）	25
別表9 推薦入試等の実施日程	26
別表10-1 推薦入試方法 教育学部	28
10-2 推薦入試方法 経済学部	29
別表11-1 帰国子女入試方法 教育学部	30
11-2 帰国子女入試方法 経済学部	31
別表12-1 社会人入試方法 教育学部	32
12-2 社会人入試方法 経済学部（昼間主コース）	33
12-3 社会人入試方法 経済学部（夜間主コース）	34
V 障害等のある入学志願者の特別措置に関する事前相談	35
VI 入学科・授業料について	35
VII 入学試験情報の開示について	35
VIII 学生募集要項の発表及び請求方法	36
アドミッション・ポリシー（学生受け入れ方針）及び学部案内	38
付表1 平成23年度入学者選抜資料	54
付表2 平成22年度卒業者進路状況資料	60
問い合わせ先，オープンキャンパス，入試情報サービス	巻末

# I 募集人員

学部	課程・学科	入学定員	一般入試		推薦入試	社会人入試	帰国子女入試	
			前期日程	後期日程				
教育学部	学校教育教員養成課程	220	122	30	68	若干名	若干名	
	環境教育課程	20	12	4	4	若干名	若干名	
	学部計	240	134	34	72	若干名	若干名	
経済学部	日間主コース	経済学科	175	70	84	21	若干名	若干名
		ファイナンス学科	60	24	29	7		
		企業経営学科	80	32	38	10		
		会計情報学科	55	22	26	7		
		情報管理学科	60	24	29	7		
		社会システム学科	70	28	34	8		
	計	500	200	240	60	若干名	若干名	
学部	夜間主コース	経済学科	9	—	—	—	9	—
		ファイナンス学科	8				8	
		企業経営学科	8				8	
		会計情報学科	8				8	
		情報管理学科	8				8	
		社会システム学科	9				9	
計	50	—	—	—	50	—		
学部計		550	200	240	60	50	若干名	
合計		790	334	274	132	50	若干名	

## Ⅱ 募集方法

### 教育学部

1. 一般入試前期日程では、下表のとおり、学校教育教員養成課程は文系型・理系型・面接型・実技型の4つの選抜区分に、環境教育課程は文系型・理系型の2つの選抜区分に、それぞれ分けて募集します。
  - ア. 学校教育教員養成課程及び環境教育課程の文系型及び理系型では、それぞれの欄に示す個別学力検査の教科を受験することにより、第2志望まで課程を志望することができます。ただし、選抜区分を超えての複数志願はできません。
  - イ. 文系型及び理系型は、両課程共通の試験問題により個別学力検査を行います。

課程	選抜区分	個別学力検査の教科等	募集人員	所属コース・専攻・専修	
前期日程	学校教育教員養成課程	文系型	外国語・国語	65名	1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績により決定します。 (各コース・専攻・専修の概要は44頁からの「学部案内の3. 課程の紹介」を参照してください)
		理系型	外国語・数学	33名	
	実技型	面接型	外国語・グループ面接(障害児教育)	7名	障害児教育コース 障害児教育専攻に所属します。
		実技型	外国語・実技検査(音楽)	5名	初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修もしくは、中等教育コース 音楽専攻に所属します。
			外国語・実技検査(美術)	5名	初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修もしくは、中等教育コース 美術専攻に所属します。
	環境教育課程	実技型	外国語・実技検査(体育)	7名	初等教育コース 初等教科専攻 体育専修もしくは、中等教育コース 保健体育専攻に所属します。
文系型			外国語・国語	6名	環境教育専攻に所属します。
理系型	外国語・数学	6名			

「実技型」の初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績により決定します。

2. 一般入試後期日程では、下表のとおり課程別に募集します。ただし、複数の課程を志望することはできません。

	課程	個別学力検査の教科等	募集人員	所属コース・専攻・専修
後期日程	学校教育教員養成課程	小論文	30名	1年次春学期終了時まで本人の希望と入学後の成績により決定します。 (各コース・専攻・専修の概要は44頁からの「学部案内の3. 課程の紹介」を参照してください)
	環境教育課程	面接	4名	環境教育専攻に所属します。

3. 一般入試の合格者の決定は、試験ごとの募集人員に基づいて合格者を決定します。なお、総合点が満点の50%未満の者は不合格とする場合があります。

4. 推薦入試は募集人員を72名とし、一般推薦・地域推薦の2つの日程に分けて選抜を実施します。一般推薦はさらに区分Aと区分Bとに分かれます。
- ア. 地域推薦は地域枠として設けられた区分です。出願要件等は28頁を参照してください。
- イ. 一般推薦と地域推薦は、出願要件を満たせば両方の受験が可能です。合格者の判定方法は28頁を参照してください。
- ウ. 一般推薦の区分Bは、高等学校の工業・農業に関する学科を卒業見込みの者、又は総合学科において工業・農業に関する科目を20単位以上履修し卒業見込みの者で、技術および情報に対する高い勉学の意欲を有し、技術の教員または小学校の教員を目指す者が出願することができます。

課程	選 抜 区 分	一 般 推 薦		地域推薦
		区分A	区分B	
学校教育教員養成課程	初等教育コース 教育文化専攻	4名		18名
	初等教育コース 学校心理専攻	2名		
	初等教育コース 学校臨床専攻	2名		
	初等教育コース 幼児教育専攻	3名		
	初等教育コース 国際理解教育専攻	2名		
	初等教育コース 初等教科専攻 国語専攻 中等教育コース 国語専攻	2名		
	初等教育コース 初等教科専攻 社会専攻 中等教育コース 社会専攻	5名		
	初等教育コース 初等教科専攻 算数専攻 中等教育コース 数学専攻	2名		
	初等教育コース 初等教科専攻 理科専攻 中等教育コース 理科専攻	4名		
	初等教育コース 初等教科専攻 音楽専攻 中等教育コース 音楽専攻	3名		
	初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専攻 中等教育コース 美術専攻	3名		
	初等教育コース 初等教科専攻 体育専攻 中等教育コース 保健体育専攻	3名		
	初等教育コース 初等教科専攻 情報・技術専攻 中等教育コース 情報・技術専攻	3名	2名	
	初等教育コース 初等教科専攻 家庭専攻 中等教育コース 家庭専攻	4名		
	初等教育コース 初等教科専攻 英語専攻 中等教育コース 英語専攻	2名		
	障害児教育コース 障害児教育専攻	4名		
	環境教育課程	環境教育専攻	4名	
合 計		52名	2名	18名

- ・一般推薦では、上記の選抜区分ごとに募集し、その専攻・専修に所属します。
- ・地域推薦は、学校教育教員養成課程で募集し、入学手続き時に申請した選抜区分の専攻・専修に所属します。環境教育課程の募集はありません。
- ・初等教育コース・中等教育コースの両方が記載されている選抜区分においては、初等教育コースもしくは中等教育コースのいずれに所属するかは、1年次春学期終了時までに本人の希望と入学後の成績により決定します。

5. 前期日程の募集人員には、帰国子女入試による募集人員(若干名)、社会人入試による募集人員(若干名)を含みます。
6. 一般推薦・地域推薦の入学手続き者が募集人員に満たない場合、欠員分は前期日程の募集人員に加えます。

## 経済学部

1. 一般入試昼間主コースの募集人員は、下表のとおり全学科を国語・外国語選択類と数学・外国語選択類の二つの選択類型に分けて募集します。

	学 科	教科の選択類型	志 望 方 法	募集人員
昼 間 主 コ ー ス	経 済 学 科 ファイナンス学科 企業経営学科 会計情報学科 情報管理学科 社会システム学科	国語・外国語	全学科から志望順に第6志望まで 選択すること。	前期100名 後期117名
		数学・外国語		前期100名 後期123名

※ 経済学部一般入試「前期日程」「後期日程」において、大学入試センター試験の受験教科・科目によりA方式（3教科3科目）、B方式（5教科7科目又は6教科7科目）の2つの採点方式を併用した総合順位方式を導入しています。

大学入試センター試験の受験教科・科目により、A方式のみが適用されるか、あるいは、A方式とB方式の両方が適用されるかが、自動的に決定されますので、出願時にA方式、B方式のどちらか一方の採点方式を選択する必要はありません。詳しくは22、23頁を参照してください。

2. 前期日程の募集人員には帰国子女入試による募集人員（若干名）、社会人入試による募集人員（若干名）を含みます。
3. 推薦入試の募集人員は、下表のとおりA推薦・B推薦に区分し募集します。

	学 科	募集人員	A 推 薦	B 推 薦	備 考
昼 間 主 コ ー ス	経 済 学 科	21名	13名	8名	A 推 薦 高等学校（特別支援学校の高等部及び中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設を含む。以下同じ）を平成24年3月卒業見込みの者 B 推 薦 高等学校の商業に関する学科又は高等学校の総合学科などを平成24年3月卒業見込みの者 ただし、総合学科など商業科以外の学科にあっては商業又は情報に関する教科・科目を合わせて20単位以上修得（見込みを含む）した者 [29頁参照]
	ファイナンス学科	7名	5名	2名	
	企業経営学科	10名	6名	4名	
	会計情報学科	7名	5名	2名	
	情報管理学科	7名	5名	2名	
	社会システム学科	8名	6名	2名	
	合 計	60名	40名	20名	

4. 推薦入試の入学手続者がA推薦、B推薦それぞれ全体の募集人員に満たない場合、欠員分は前期日程の募集人員に加えます。
5. 社会人入試夜間主コースの募集人員は、下表のとおり1種及び2種に分けて募集します。

	学 科	募集人員	1 種	2 種
夜 間 主 コ ー ス	経 済 学 科	9名	4名	5名
	ファイナンス学科	8名	3名	5名
	企業経営学科	8名	3名	5名
	会計情報学科	8名	3名	5名
	情報管理学科	8名	3名	5名
	社会システム学科	9名	4名	5名
	合 計	50名	20名	30名

## 6. 合格者の決定方法

いずれの入試においても、各入試ごとに受験者全員を対象に、それぞれの入試ごとの募集人員の総数に基づいて合格者を決定します。各学科ごとに合格者を決定するものではありません。

## 7. 学科配属

学部全体で合格者を決定したのちに、入学志願票に記入された学科の志望順位と、入学試験の総合成績によって、配属学科を決定します。合格者の総合成績によっては第1志望以外の学科に配属されることがあります。

# Ⅲ 一般入試

## 1. 実施方式・日程・合格発表

本学は、教育学部及び経済学部ともに、分離・分割方式「前期日程」及び「後期日程」により個別学力検査等を実施します。〔19頁参照〕

## 2. 他大学及び本学学部間の併願

平成24年度大学入学者選抜は、国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）にあっては「分離・分割方式」により実施されるので、志願者は「前期日程」の大学・学部から一つ、「後期日程」の大学・学部から一つの合計二つの大学・学部に出願することができます。（※公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）参照）

従って、試験日程グループ間の併願については、「前期－前期」、「後期－後期」の併願はできません。

本学の「前期日程」に出願する者は、本学の「後期日程」もしくは他の国公立大学の「後期日程」に、並びに、本学の「後期日程」に出願する者は、本学の「前期日程」もしくは他の国公立大学の「前期日程」に出願することができます。

## 3. 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、本学が指定する平成24年度大学入試センター試験の教科・科目を受験した者です。

ただし、推薦入試、帰国子女入試、社会人入試における出願資格は、別に定めています。

〔24～34頁参照〕

- (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者、及び平成24年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、及び平成24年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者のうち次の各号の一に該当する者及び平成24年3月31日までにこれに該当する見込みの者
  - ア. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
  - イ. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
  - ウ. 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上で、かつ課程の修了に必要な総授業時間数が2,590時間以上であること）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
  - エ. 文部科学大臣の指定した者
  - オ. 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む。）
  - カ. 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認

めた者で、平成24年3月31日までに18歳に達するもの（(注) 参照）

(注) 出願資格の(3)の力。により出願を希望する者は、事前に資格認定の審査を行うので、「入学資格認定審査申請要領」を本学入試課あてに請求し、「入学資格認定申請書」に次表の区分による提出書類を添え、下記の期間内に申請を行うこと。持参の場合は、毎日9時から17時まで受け付けます。

第1次 平成23年9月1日(木)～9月7日(水)17時必着

第2次 平成24年1月16日(月)～1月18日(水)17時必着

#### ●提出書類一覧

区 分	提 出 書 類
3年以上の教育施設での学習歴を有する者	①調査書又は成績証明書及び最終出身学校等の卒業（見込）証明書 ②カリキュラム等当該教育施設の教育課程が確認できる書類
社会での実務経験等を有する者	①大学入学資格があるとする理由書 ②最終出身学校等の卒業（修了）証明書 ③実務経験の期間及び内容を証明する書類
日本の大学で科目等履修生として在籍中又は在籍した者	①最終出身学校等の卒業（修了）証明書 ②科目等履修生の在学（在籍）証明書 ③成績証明書又は学習歴を証明する書類
その他、高等学校卒業と同等以上の学力を有すると認められる者	①大学入学資格があるとする理由書 ②最終出身学校等の卒業（修了）証明書 ③学習歴を証明する書類

なお、上記提出書類のほか「その他本学が必要とする書類」を求めることがあります。

「入学資格認定審査申請要領」は、滋賀大学入試情報ホームページ（<http://welcome.biwako.shiga-u.ac.jp/>）から入手することができます。

## 4. 出願期間

平成24年1月23日(月)～平成24年2月1日(水)

## 5. 入学者選抜方法等

入学者の選抜方法は、平成24年度大学入試センター試験並びに本学が実施する個別学力検査、実技検査等の成績、及び出願書類を総合して判定します。

この場合、経済学部を選抜方法は、「入学者選抜の実施教科・科目等について」〔13, 14頁参照〕に記載のA方式又はB方式により行います。大学入試センター試験を5教科7科目、又は6教科7科目受験した者はA方式、B方式の両方により判定を行い、上位の順位を採用します。詳しくは「経済学部一般入試制度の概要」〔22, 23頁〕を参照してください。

また、本学は前年度大学入試センター試験の成績は利用しません。

- 入学者選抜方法等（一般入試、アドミッション・オフィス入試）〔7, 8頁参照〕
- 入学者選抜の実施教科・科目等について〔9～16頁参照〕
- 教育学部で課する実技検査の概要〔17, 18頁参照〕
- 大学入試センター試験及び個別学力検査等配点表〔20, 21頁参照〕

## 6. 2段階選抜

教育学部、経済学部ともに2段階選抜は実施しません。

別表 1

## 入学者選抜方法等（一般入試、

## 前期日程

学部	選抜方法等 課程・学科		個別学力検査等						アドミッ ション・オフ イス入試	個別学力検査 等の日程	備考 〔欠員の補充 の方法等〕	
			個別学 力検査 を課す る	実技検査等			2段階選抜					
				実技検 査を課 する	面接を 行う	小論文 を課す る	外国語 におけ るリス ニング テスト を課す る	主として、調査書の内 容と大学入試センター 試験の成績により第1 段階選抜を行い、その 合格者について更に必 要な検査等を行う				第1段階の選抜 による合格者数  定員に 対する 倍率
教育学部	学校教育 教員養成 課程	文系型	○	×	×	×	×				平成 24 年 2月25日(土)	追加合格を実施 する
		理系型	○	×	×	×	×					
		面接型	○	×	○	×	×					
		実技型	○	○	×	×	×					
	環境教育 課程	文系型	○	×	×	×	×				平成 24 年 2月25日(土)	
		理系型	○	×	×	×	×					
経済学部	経済学科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	平成 24 年 2月25日(土)	追加合格を実施 する
	ファイナンス学科											
	企業経営学科											
	会計情報学科											
	情報管理学科											
	社会システム学科											

(注) 1. 各項目について、○印は該当する場合、×印は該当しない場合です。

2. 学校教育教員養成課程実技型の個別学力検査日程は実技検査のみ26日(日)に実施する場合があります。その他は25日(土)に実施します。

# アドミッション・オフィス入試)

## 後期日程

学 部	選抜方法等 課程・学科	個別学力検査等							アドミ ッション・オ フィ ス入試	個別学力検査 等の日程	備 考 (欠員の補充 の方法等)	
		個別学 力検査 を課す る	実技検査等			2 段 階 選 抜						
			実技検 査を課 する	面接を 行う	小論文 を課す る	外国語 におけ るリス ニング テスト を課す る	主として、調査書の内容 と大学入試センター 試験の成績により第1 段階選抜を行い、その 合格者について更に必 要な検査等を行う	第1段階の選抜 による合格者数				定員に 対する 倍率
教 育 学 部	学校教育教員養成 課程	×	×	×	○	×	×	×	×	×	平 成 24 年 3月12日(月)	追加合格を実施 する
	環 境 教 育 課 程	×	×	○	×	×						
経 済 学 部	経 済 学 科	○	×	×	×	×	×	×	×	×	平 成 24 年 3月12日(月)	追加合格を実施 する
	ファイナンス学科											
	企業経営学科											
	会計情報学科											
	情報管理学科											
	社会システム学科											

(注) 各項目について、○印は該当する場合、×印は該当しない場合です。

別表 2

## 平成24年度 滋賀大学入学者選抜の

学部・学科等名及び入学定員等 (平成23年度志願倍率)		学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		
			教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜
教育学部 5.2倍  240人 前期 134人 後期 34人 その他 72人	学校教育教員養成課程  220人  前期 122人 文系型 65人 理系型 33人 面接型 7人 実技型 17人  後期 30人  その他 68人	前期 2月25日 文系型	国	国語	国 外	国語総合,国語表現Ⅰ 英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング	
		地歴	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から2				
		公民	現社,倫,政経,倫・政経				
		数	数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,工,簿,情報 から1				
		理	理科総合A,理科総合B, 物Ⅰ,化Ⅰ,生Ⅰ,地Ⅰ から1				
		外	英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕				
前期 2月25日 理系型	国	国語	数 外	数Ⅰ,数Ⅱ,数A,数B 英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング			
地歴	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1						
公民	現社,倫,政経,倫・政経						
数	数Ⅰ・数A と 数Ⅱ・数B,工,簿,情報 から1						
理	理科総合A又は理科総合B, 物Ⅰ,化Ⅰ,生Ⅰ,地Ⅰ } から2						
外	英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目〕						
前期 2月25日 面接型	国	国語	外 その他	英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング グループ面接			
数	数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,工,簿,情報 から1						
地歴	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1						
公民	現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2						
理	理科総合A又は理科総合B, } から1						
外	物Ⅰ,化Ⅰ,生Ⅰ,地Ⅰ } 又は2 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕						
前期 2月25日 実技型	国	国語	外 その他	英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング 実技検査			
数	数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,工,簿,情報 から1						
地歴	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1						
公民	現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2						
理	理科総合A又は理科総合B, } から1						
外	物Ⅰ,化Ⅰ,生Ⅰ,地Ⅰ } 又は2 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕						
後期 3月12日	国	国語	その他	小論文			
数	数Ⅰ・数A と 数Ⅱ,数Ⅱ・数B,工,簿,情報 から1						
地歴	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B } から1						
公民	現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2						
理	理科総合A又は理科総合B, } から1						
外	物Ⅰ,化Ⅰ,生Ⅰ,地Ⅰ } 又は2 英,独,仏,中,韓 から1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕						

## 実施教科・科目等について

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											その他の 選抜方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	実技 検査	小論文	面接	配点 合計	
センター試験	200	200		200	100	200				900	推薦 帰国子女 社会人 外国人 追加合格
個別学力検査	200					200				400	
計	400	200		200	100	400				1300	
センター試験	200	100		200	200	200				900	
個別学力検査				200		200				400	
計	200	100		400	200	400				1300	
センター試験	200	※300		200	※300	200				900	
個別学力検査						200			200	400	
計	200	※300		200	※300	400			200	1300	
センター試験	200	※300		200	※300	200				900	
個別学力検査						100	300			400	
計	200	※300		200	※300	300	300			1300	
センター試験	200	※300		200	※300	200				900	
個別学力検査								200		200	
計	200	※300		200	※300	200		200		1100	

学部・学科等名及び入学定員等 (平成23年度志願倍率)		学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			
			教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	
教育学部 5.2倍 240人 前期 134人 後期 34人 その他 72人	環境教育課程 20人 前期 12人 文系型 6人 理系型 6人 後期 4人 その他 4人	前期 2月25日 文系型	国	国語	国 外	国語総合,国語表現 I 英 I,英 II,リーディング, ライティング		
			地歴 公民 数 理 外	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B 現社,倫,政経,倫・政経 数 I・数 A と 数 II,数 II・数 B,工,簿,情報 から 1 理科総合 A,理科総合 B, 物 I,化 I,生 I,地 I から 1 英,独,仏,中,韓 から 1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕				から 2
		前期 2月25日 理系型	国	国語	数 外	数 I,数 II,数 A,数 B 英 I,英 II,リーディング, ライティング		
地歴 公民 数 理 外	世A,世B,日A,日B,地理A,地理B 現社,倫,政経,倫・政経 数 I・数 A と 数 II・数 B,工,簿,情報 から 1 理科総合 A又は理科総合 B, 物 I,化 I,生 I,地 I 英,独,仏,中,韓 から 1 〔5教科7科目〕	から 1 から 2						
		後期 3月12日	国 数 地歴 公民 理 外	国語 数 I・数 A と 数 II,数 II・数 B,工,簿,情報 から 1 世A,世B,日A,日B,地理A,地理B 現社,倫,政経,倫・政経 理科総合 A又は理科総合 B, 物 I,化 I,生 I,地 I 英,独,仏,中,韓 から 1 〔5教科7科目又は6教科7科目〕	から 1 又は 2 から 1 又は 2 から 3	その他	面接	

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											その他の 選抜方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	実技 検査	小論文	面接	配点 合計	
センター試験	200	200		200	100	200				900	推薦 帰国子女 社会人 外国人 追加合格
個別学力検査	200					200				400	
計	400	200		200	100	400				1300	
センター試験	200	100		200	200	200				900	
個別学力検査				200		200				400	
計	200	100		400	200	400				1300	
センター試験	200	※300		200	※300	200				900	
個別学力検査									200	200	
計	200	※300		200	※300	200			200	1100	

学部・学科等名及び入学定員等 (平成23年度志願倍率)		学力検査 等の区 分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等				
			教科	科目名等	教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜		
経済学部 6.9倍  500人 前期 200人 後期 240人 その他 60人	昼	前期 2月25日	A方式		B方式		国 外	国語総合,国語表現Ⅰ 英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング			
			国	国語 英,独,仏,中,韓 から1 数Ⅰ・数A,数Ⅱ・数B, 工,簿,情報	国	国語 英,独,仏,中,韓 から1 数Ⅰ・数A と 数Ⅱ・数B,工,簿,情報 から1				数 外	数Ⅰ,数Ⅱ,数A,数B 英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング
			地歴	世A,世B,日A,日B, から1 地理A,地理B	地歴	世A,世B,日A,日B, から1 地理A,地理B } 又は2					
			公民	現社,倫,政経,倫・政経 〔3教科3科目〕	公民 理	現社,倫,政経,倫・政経 } 又は2 理科総合A,理科総合B, 物Ⅰ,化Ⅰ,生Ⅰ,地Ⅰ } 又は2 〔5教科7科目又は6教科7科目〕					
主	ファイナンス学科 60人 前期 24人 後期 29人 その他 7人  企業経営学科 80人 前期 32人 後期 38人 その他 10人  会計情報学科 55人 前期 22人 後期 26人 その他 7人  情報管理学科 60人 前期 24人 後期 29人 その他 7人	後期 3月12日	国 外	国語総合,国語表現Ⅰ 英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング							
コ	社会システム学科 70人 前期 28人 後期 34人 その他 8人		数 外	数Ⅰ,数Ⅱ,数A,数B 英Ⅰ,英Ⅱ,リーディング, ライティング							
1											
	ス										

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											その他の 選抜方法等
試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	実技検査	小論文	面接	配点合計	
A 方 式	センター試験	200	#100	#100		200				500	推薦 帰国子女 社会人
	個別学力検査	200				200				400	
	計	400	#100	#100		400				900	
B 方 式	センター試験	200	*300	200	*300	200				900	外国人 追加合格
	個別学力検査	200				200				400	
	計	400	*300	200	*300	400				1300	
A 方 式	センター試験	200	#100	#100		200				500	
	個別学力検査			200		200				400	
	計	200	#100	#100 200		400				900	
B 方 式	センター試験	200	*300	200	*300	200				900	
	個別学力検査			200		200				400	
	計	200	*300	400	*300	400				1300	
A 方 式	センター試験	200	#100	#100		200				500	
	個別学力検査	500				500				1000	
	計	700	#100	#100		700				1500	
B 方 式	センター試験	200	*300	200	*300	200				900	
	個別学力検査	500				500				1000	
	計	700	*300	200	*300	700				1900	
A 方 式	センター試験	200	#100	#100		200				500	
	個別学力検査			500		500				1000	
	計	200	#100	#100 500		700				1500	
B 方 式	センター試験	200	*300	200	*300	200				900	
	個別学力検査			500		500				1000	
	計	200	*300	700	*300	700				1900	

## 〔注意事項〕

### 1. 配点について

- (1) ※は、選択教科を示し、4科目受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
- (2) #は、選択教科を示し、2教科以上受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」と「数学」から高得点の1教科1科目の成績を用います。
- (3) \*は、選択教科を示し、4科目受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
- (4) 「地理歴史、公民」及び「理科」において、2科目受験した場合の1科目利用には、第1解答科目の成績を用います。
- (5) 大学入試センター試験外国語の「英語」の配点には、リスニングテストの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。  
筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計を200点満点に換算して利用します。
- (6) 経済学部「前期日程」「後期日程」の配点は、「A方式」又は「B方式」により行います。
- (7) 経済学部「前期日程」「後期日程」の個別学力検査の配点は、「国語・外国語」又は「数学・外国語」の組み合わせにより行います。

### 2. 大学入試センター試験の利用教科・科目について

- (1) 地理歴史、公民において、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできません。
- (2) 数学の「工業数理基礎」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者、及び専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- (3) 経済学部の大学入試センター試験の利用教科・科目は、「A方式」又は「B方式」により行います。

### 3. 個別学力検査等の出題範囲及び出題方法等について

#### (1) 教育学部

- 国語 国語総合、国語表現Ⅰから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 数学 数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B〔(数列)と(ベクトル)〕から出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 外国語 英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティングから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 実技検査 音楽実技、美術実技、体育実技を実施します（前期日程のみ）。

#### (2) 経済学部

- 国語 国語総合、国語表現Ⅰから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。ただし、後期日程の「国語総合」においては、明治以降の文章とし、古文及び漢文は課しません。
- 数学 数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B〔(数列)と(ベクトル)〕から出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。
- 外国語 英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティングから出題します。同一試験時間内に解答しなければなりません。

#### 4. その他

- (1) 教育学部の志望方法について、前期日程では課程を超えた複数志願が可能となります（面接型・実技型で受験する者の複数志願はできません）。ただし、前期日程の個別学力検査は、「外国語・国語」、「外国語・数学」、「外国語・実技検査」又は「外国語・面接」のうちいずれかひとつの組み合わせによる受験のみとなります。したがって、前期日程で、教員養成課程文系型と教員養成課程理系型、あるいは環境教育課程文系型と環境教育課程理系型といった複数志願はできません。詳しくは「Ⅱ 募集方法〔2頁〕」を参照してください。
- (2) 経済学部「前期日程」「後期日程」の個別学力検査の教科は、「国語・外国語」又は「数学・外国語」の組み合わせにより行います。
- (3) 経済学部の夜間主コースの選抜は、社会人入試（入学定員50名）で実施します。

## 前期日程

		実 施 検 査 項 目 等
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	音	<p>次のA～Cの3項目について検査を実施します。</p> <p>A. 音楽の基礎 「ピアノ演奏による旋律聴音（8～12小節程度）を含む、基礎的な内容の楽典」及び「8小節程度の新曲の弾き歌い」の課題を出題します。</p> <p>B. 声 楽 (イ) コールユーブンゲン第一巻より No.50. 以降, 検査当日1曲指定します。 (ロ) 独唱 次の8曲の中から任意の1曲を暗譜で演奏, 歌詞は原語とします。 (1) Lasciar d'amarti : F. Gasparini [f moll, d moll ] (2) Sebben, crudele : A. Caldara [d moll, c moll ] (3) Per la gloria d'adorarvi : G. B. Bononcini [F dur, Es dur ] (4) Caro mio ben : G. Giordani [Es dur, Des dur ] (5) Ich liebe dich : L. v. Beethoven [G dur, F dur ] (6) An die Musik : F. Schubert [D dur, C dur ] (7) 中国地方の子守唄 : 山田耕筰 [e moll ] (8) 浜辺の歌 : 成田為三 [As dur ] (注) [ ]内に指定された調以外で演奏する場合は, 移調譜(氏名記入)を入学志願票と同時に提出してください。</p> <p>C. ピアノ独奏 ソナタから任意の1曲の第1楽章又は終楽章(ただし, 緩徐なものは除く)を暗譜で演奏し, 繰り返しは省略してください。</p>
	美術	<p>次の項目について検査を実施します。制作時間は3時間とします。</p> <p>「鉛筆静物デッサン」 注 検査当日, 次の用具を持参してください。 鉛筆(2H～6B), 消しゴム(練りゴム), カッターナイフ</p>
	体育	<p>次の2つの系列からそれぞれ1種目を選択し, 計2種目について検査を実施します。</p> <p>A系列 陸上運動, 器械運動 B系列 バスケットボール, バレーボール, サッカー, 柔道, 剣道</p>

推薦入試（一般）・帰国子女入試

		実 施 検 査 項 目 等
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	初等教育コース 国語専攻	次のA～Cの3項目について検査を実施します。 A. 漢字各書体のうち、楷書、行書、隸書の古典の中から二書体の臨書（半紙） B. かな古典の臨書（所定の用紙） C. 少字数（漢詩句）又は多字数（漢字仮名交じり文）による創作（画仙紙半切程度）
	初等教育コース 音楽専攻	次のA～Cの3項目について検査を実施します。 A. 音楽の基礎 「ピアノ演奏による旋律聴音（8～12小節程度）を含む、基礎的な内容の楽典」及び「8小節程度の新曲の弾き歌い」の課題を出題します。 B. 声 楽 （イ）コールユーブンゲン第一巻より No.50. 以降、検査当日1曲指定します。 （ロ）独唱 イタリア古典歌曲より任意の1曲を暗譜で演奏し、歌詞は原語とします。 （注）「独唱伴奏譜」（氏名記入）を入学志願票と同時に提出してください。 C. ピアノ独奏 ソナタから任意の1曲の第1楽章又は終楽章（ただし、緩徐なものは除く）を暗譜で演奏し、繰り返しは省略してください。
	初等教育コース 美術専攻	次のA Bの2項目について検査を実施します。 A. 美術に関する図版や文章等の資料による、スケッチや記述などを課します。 B. 持参した自作についての質疑応答。（面接試験時に行います。） 注1 検査当日、次の用具を持参してください。 鉛筆（2H～6B）、消しゴム（練りゴム）、カッターナイフ 注2 高等学校在学中に受験者本人が制作した作品を2点、検査当日に持参してください。 なお、制作年月日を記した高等学校長、及び指導教諭（担任教諭でも可）の証明書を添付してください。（書式は問いません） ・作品の大きさは、一人で持ち込めるものとします。 ・作品の形状（平面、立体など）は問いません。ただし、特別な装置の必要なものは除きます。 ・作品は現物の他に、作品写真のファイルなどの資料を持参してもかまいません。

別表 4

## 一般入試個別学力検査等の実施日程

学部	日程	実施日	教科等	時間	
教育学部	前期日程	平成24年2月25日(土)	外国語	10:30~12:00	
			国語	13:30~15:00	
			数学		
			グループ面接	障害児教育	13:30~17:00 (予定)
			実技検査 (注)	音楽	
				美術	
後期日程	平成24年3月12日(月)	小論文	10:00~12:00		
		面接	13:00~17:00 (予定)		
経済学部	前期日程	平成24年2月25日(土)	外国語	10:30~12:00	
			国語又は数学	13:30~15:00	
	後期日程	平成24年3月12日(月)	外国語	10:30~12:10	
			国語又は数学	13:40~15:20	

(注) 教育学部前期日程の実技検査において、志願者数が多い場合は翌日(26日)に検査を実施する場合があります。  
実技検査の実施日は受験票を送付する際に併せて通知します。

別表 5

## 合格発表

日程	学部	発表日
前期日程	教育学部	平成24年3月6日(火)
	経済学部	
後期日程	教育学部	平成24年3月20日(火)
	経済学部	

別表 6 大学入試センター試験及び個別学力検査等配点表

前期日程

学部	課程	選抜区分	大学入試センター試験							個別学力検査等						合計			
			外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	外国語	国語	数学	実技	面接	計				
教育学部	学校教育教員養成課程	文系型	200	200	200	200		100	900	200	200					400	1,300		
		理系型				100		200				200							
		面接型				※300 (100×3)									200				
		実技型				※300 (100×3)						100		300					
	環境教育課程	文系型				200		100		200									
		理系型				100		200		200									
経済学部	経済学科 ファイナンス学科 企業経営学科 会計情報学科 情報管理学科 社会システム学科	A方式	200	200	#100			500	200	200	200	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択		400	900				
		B方式	200	200	200	*300 (100×3)			900	200	200	200	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択		400	1,300			

- (注) 1. ※は、選択教科を示し、4科目受験した場合は「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
2. #は、選択教科を示し、2教科以上受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」と「数学」から高得点の1教科1科目の成績を用います。
3. \*は、選択教科を示し、4科目受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
4. 「地理歴史、公民」及び「理科」において、2科目受験した場合の1科目利用には、第1解答科目の成績を用います。
5. 大学入試センター試験外国語の「英語」の配点には、リスニングテストの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。  
筆記試験 (200点満点) とリスニングテスト (50点満点) の合計を200点満点に換算して利用します。

## 後期日程

学部	課 程		大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験						個 別 学 力 検 査 等				合計	
			外国語	国語	数学	地歴	公民	理科	計	小論文	面接	計		
教育 学部	学校教育教員養成課程		200	200	200	※300 (100×3)			900	200		200	1,100	
	環境教育課程									200				
経 済 学 部	学 科	区分	国語	外国語	数学	地歴	公民	理科	計	国語	数学	外国語	計	合計
	経 済 学 科	A 方 式	200	200	#100			500	500	500	500	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択	1,000	1,500
	ファイナンス学科 企業経営学科 会計情報学科													
	情報管理学科 社会システム学科	B 方 式	200	200	200	*300 (100×3)			900	500	500	500	国語・外国語 又は 数学・外国語 の選択	1,000

- (注) 1. ※は、選択教科を示し、4科目受験した場合は「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
2. #は、選択教科を示し、2教科以上受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」と「数学」から高得点の1教科1科目の成績を用います。
3. \*は、選択教科を示し、4科目受験した場合は、「地理歴史、公民の第1解答科目」、「理科の第1解答科目」及び「地理歴史、公民と理科の第2解答科目から高得点の1科目」の合計3科目の成績を用います。
4. 「地理歴史、公民」及び「理科」において、2科目受験した場合の1科目利用には、第1解答科目の成績を用います。
5. 大学入試センター試験外国語の「英語」の配点には、リスニングテストの成績を含み、その利用方法については次のとおりとします。  
筆記試験 (200点満点) とリスニングテスト (50点満点) の合計を200点満点に換算して利用します。

## 経済学部一般入試制度の概要

経済学部一般入試「前期日程」「後期日程」において、大学入試センター試験の受験教科・科目によりA方式（3教科3科目）、B方式（5教科7科目又は6教科7科目）の二つの採点方式を併用した総合順位方式を導入しています。

大学入試センター試験の受験教科・科目により、A方式のみが適用されるか、あるいは、A方式とB方式の両方が適用されるかが、自動的に決定されますので、出願時にA方式、B方式のどちらか一方の採点方式を選択する必要はありません。

その概要は以下のとおりです。

1. 全受験者をA方式により採点し、順位付けを行います。
2. 大学入試センター試験を5教科7科目以上受験した者は、A方式に加えてB方式でも採点し順位付けを行い、どちらかの順位のうち上位の順位を、その受験者の総合順位とします。  
なお、A方式のみに該当する受験者は、A方式の順位がそのまま総合順位となります。
3. その総合順位により合格者を判定します。

### 総合順位方式の例

☆募集人員 10名

☆受験者 20名

うちB方式該当者（センター試験5教科7科目以上受験者）15名

↓

2つの採点方式による評価の結果が、右の表の順位となったと想定

101 安藤

A方式のみ該当

A方式17位

→総合順位17位

102 井上

A方式13位

B方式11位

→総合順位11位

番号	氏名	A方式順位	B方式順位	総合順位
101	安藤	17	-	17
102	井上	13	11	11
103	内田	14	10	10
104	江藤	2	-	2
105	小野	9	2	2
106	川合	16	14	14
107	木下	20	-	20
108	熊沢	1	1	1
109	見城	15	12	12
110	古賀	8	-	8
111	真田	3	9	3
112	清水	4	7	4
113	鈴木	7	-	7
114	瀬川	12	6	6
115	相馬	10	8	8
116	田中	19	13	13
117	茅野	5	4	4
118	土屋	6	3	3
119	寺山	18	15	15
120	富岡	11	5	5

この場合、下図のように総合6位までに9名、総合7位までに10名、総合8位までに12名なので、10名を選抜するためには総合7位までを合格とします。

=すなわち、A・B両方式のそれぞれ7位までが合格

※      はA方式のみの受験者

A方式		B方式	総合順位	
108 熊沢 1	↑ 合 格	108 熊沢 1	108 熊沢 1	↑ 合 格
104 <u>江藤</u> 2		105 小野 2	104 <u>江藤</u> 2	
111 真田 3		118 土屋 3	105 小野 2	
112 清水 4		117 茅野 4	111 真田 3	
117 茅野 5		120 富岡 5	118 土屋 3	
118 土屋 6		114 瀬川 6	112 清水 4	
113 <u>鈴木</u> 7		112 清水 7	117 茅野 4	
110 <u>古賀</u> 8	↓ 不 合 格	115 相馬 8	120 富岡 5	↓ 不 合 格
105 小野 9		111 真田 9	114 瀬川 6	
115 相馬 10		103 内田 10	113 <u>鈴木</u> 7	
120 富岡 11		102 井上 11	110 <u>古賀</u> 8	
114 瀬川 12		109 見城 12	115 相馬 8	
102 井上 13		116 田中 13	103 内田 10	
103 内田 14		106 川合 14	102 井上 11	
109 見城 15		119 寺山 15	109 見城 12	
106 川合 16			116 田中 13	
101 <u>安藤</u> 17			106 川合 14	
119 寺山 18			119 寺山 15	
116 田中 19			101 <u>安藤</u> 17	
107 <u>木下</u> 20			107 <u>木下</u> 20	

## IV 推薦入試等

教育学部，経済学部の入学者選抜方法等については，次のとおりです。

- 別表 8 入学者選抜方法等（推薦入試等） [25頁参照]
- 別表 9 推薦入試等の実施日程 [26,27頁参照]

### 1. 推薦入試

本学志望の意志が強く勉学に意欲ある優れた人で，出身高等学校長の推薦により，入学定員の一部分について，大学入試センター試験，個別学力検査を免除し一般の入学者選抜とは別の方法により入学者の選抜を実施します。

- 別表10-1 推薦入試方法 教育学部 [28頁参照]
- 別表10-2 推薦入試方法 経済学部 [29頁参照]

### 2. 帰国子女入試

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で，外国で学校教育を受け，帰国後本学に入学を希望する子女で，入学定員の一部分について，大学入試センター試験を免除し，一般の入学者選抜とは別の方法により入学者の選抜を実施します。

- 別表11-1 帰国子女入試方法 教育学部 [30頁参照]
- 別表11-2 帰国子女入試方法 経済学部 [31頁参照]

### 3. 社会人入試

生涯教育を推進し，勤労者に高等教育の機会を与え，真に社会人の多様なニーズに応えるため，大学入試センター試験を免除し，一般の入学者選抜とは別の方法により入学者の選抜を実施します。

なお，経済学部では，昼間主コースと夜間主コースに編成しています。

- 別表12-1 社会人入試方法 教育学部 [32頁参照]
- 別表12-2 社会人入試方法 経済学部（昼間主コース） [33頁参照]
- 別表12-3 社会人入試方法 経済学部（夜間主コース） [34頁参照]

別表 8

入学者選抜方法等（推薦入試等）

学部	課程・コース・専攻・専修 学 科	推 薦 入 試								帰国子女・社会人等のための入試			備 考		
		個別学力 検査を免 除し、大 学入試セ ンター試 験を課す る	個別学力 検査及び 大学入試 センター 試験を免 除する	実 技 検 査 等					推薦入 試募集 人員	帰 国 子 女	中 国 引 揚 者 等 子 女	社 会 人			
				実技検 査を課 する	面接を 行う	小論文 を課す る	外国語に おけるリ スニング テストを 課する	その他							
教 育 学 部	初等教育コース教育文化専攻	×	○	×	○	○	×	×	1 頁 又 は 28 頁 を 参 照	○	×	○	実技検査の概要は18頁を参照		
	初等教育コース学校心理専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース学校臨床専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース幼児教育専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース国際理解教育専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻国語専修 中等教育コース国語専攻	×	○	○	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻社会専修 中等教育コース社会専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻算数専修 中等教育コース数学専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻理科専修 中等教育コース理科専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻音楽専修 中等教育コース音楽専攻	×	○	○	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻図画工作専修 中等教育コース美術専攻	×	○	○	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻体育専修 中等教育コース保健体育専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻情報技術専修 中等教育コース情報技術専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻家庭専修 中等教育コース家庭専攻	×	○	×	○	○	×	×							
	初等教育コース初等教科専攻英語専修 中等教育コース英語専攻	×	○	×	○	○	○	×							
	障害児教育コース障害児教育専攻	×	○	×	○	○	×	×							
環境教育課程	環 境 教 育 専 攻	×	○	×	○	○	×	×							
経 済 学 部	経 済 学 科	昼 間 主 コ ー ス	×	○	×	○	○	×	1 頁 又 は 29 頁 を 参 照	○	×	○			
	ファイナンス学科														
	企業経営学科														
	会計情報学科	夜 間 主 コ ー ス	/												
	情報管理学科														
社会システム学科															

(注) 1. 各項目において、該当するものは○印、該当しないものは×印です。

2. 教育学部の推薦入試については、一般推薦について記載しています。地域推薦の選抜方法等については28頁を参照してください。

## 推薦入試等の実施日程

## 教育学部

入試区分		実施期日	小論文	専門課題・面接等
推薦入試	一般推薦	平成23年11月19日(土)	課程別小論文 (学校教育教員養成課程) 9:30～10:30	○初等教育コース初等教科専攻国語専修及び 中等教育コース国語専攻 実技及び面接 12:30～17:00(予定) ○初等教育コース初等教科専攻音楽専修及び 中等教育コース音楽専攻 実技及び面接 11:00～17:00(予定) ○初等教育コース初等教科専攻図画工作専修及び 中等教育コース美術専攻 実技及び面接 12:30～17:00(予定) ○初等教育コース初等教科専攻英語専修及び 中等教育コース英語専攻 リスニング及び面接 11:00～17:00(予定)
				○上記以外の選抜区分(学校教育教員養成課程) 小論文 10:45～11:45 面接 13:00～17:00(予定)
	地域推薦	平成23年11月20日(日)	共通小論文 10:00～11:30	面接(環境教育課程) 13:00～17:00(予定)
帰国子女入試		平成23年11月19日(土)	課程別小論文 (学校教育教員養成課程) 9:30～10:30	○初等教育コース初等教科専攻国語専修及び 中等教育コース国語専攻 実技及び面接 12:30～17:00(予定) ○初等教育コース初等教科専攻音楽専修及び 中等教育コース音楽専攻 実技及び面接 11:00～17:00(予定) ○初等教育コース初等教科専攻図画工作専修及び 中等教育コース美術専攻 実技及び面接 12:30～17:00(予定) ○初等教育コース初等教科専攻英語専修及び 中等教育コース英語専攻 リスニング及び面接 11:00～17:00(予定)
				○上記以外の選抜区分(学校教育教員養成課程) 小論文 10:45～11:45 面接 13:00～17:00(予定)
			課程別小論文 (環境教育課程) 9:30～11:00	面接(環境教育課程) 13:00～17:00(予定)
社会人入試		平成23年11月19日(土)	課程別小論文 (学校教育教員養成課程) 9:30～10:30	個人面接 13:00～17:00(予定)
			課程別小論文 (環境教育課程) 9:30～11:00	個人面接 13:00～17:00(予定)

- (注) 1. 11時から開始の実技検査・リスニング及び面接は昼食の時間を除きます。  
2. 地域推薦の集団討論及び集団面接は、出願者が少数の場合、個人面接に変更することがあります。  
3. 面接のため長時間待機することがあります。

経済学部

入試区分	実施期日	小論文	面接
推薦入試	第1次選考 平成23年11月12日(土)	10:00～12:30	10:00～16:00(予定) 討論形式
	第2次選考 平成23年11月26日(土)		
帰国子女入試	平成23年12月3日(土)	10:00～11:30	12:30～
社会人入試 (昼間主コース)	平成23年12月3日(土)	10:00～11:30	12:30～
社会人入試 (夜間主コース)	1種及び2種 平成23年12月3日(土)	10:00～11:30	12:30～

別表10-1

## 推 薦 入 試 方 法

実 施 学 部	教 育 学 部				
募集人員 72名	課 程	一般推薦	地域推薦	計	(注) 一般推薦の選抜区分と区分ごとの募集人員は3頁を参照してください。
	学校教育教員養成課程	50名	18名	68名	
	環境教育課程	4名		4名	
出 願 要 件	一般推薦		地域推薦		
	次の一般推薦・地域推薦の区分において、それぞれの各号のすべてに該当する者で、学業成績が優秀で高等学校長が責任をもって推薦できる者。また、合格した場合は、入学することを確約できる者。				
	(1) 高等学校（特別支援学校の高等部及びに中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ）を平成24年3月卒業見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む） (2) 学校教育教員養成課程では教員になる強い意欲を持つ者、環境教育課程では環境教育に高い関心を持つ者 (3) 高等学校の調査書における学業成績の全体の評定平均値が、区分Aでは4.0以上の者。区分Bでは4.3以上の者		(1) 滋賀県内の高等学校（特別支援学校の高等部並びに中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を平成24年3月卒業見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む） (2) 滋賀県で学校教員になる強い意欲を持つ者 (3) 高等学校の調査書における学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者		
	地域推薦の出願要件に該当する者は、地域推薦と一般推薦の両方に出願することができます（必要な推薦書・調査書は1通だけです）。ただし、地域推薦と一般推薦で異なる課程への出願はできません。				
推 薦 人 員	高等学校長が推薦できる人員は、1校につき6名以内（その内地域推薦入試に推薦できるのは3名以内）とします。なお、両方に出願した場合は、1名と数えます。				
選 抜 方 法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、高等学校長からの推薦書に基づき、一般推薦・地域推薦ごとの選抜方法によって選抜を行います。 (ア) 両方を受験していずれも合格した場合は地域推薦での合格として扱い、一般推薦の合格者数には加えません。 (イ) 両方を受験していずれか又は両方に合格した者は、一般推薦の可否にかかわらず、一般推薦で出願した選抜区分の専攻・専修に所属するものとします。				
	専門への関心や知識、課題探究能力を重視し、調査書、小論文、専門課題、面接の成績を総合して判定します。		地域への関心と教育への熱意を重視し、調査書、小論文、集団討論、面接の成績を総合して判定します。		
出 願 期 間	平成23年11月1日(火)～11月7日(月)				
選 抜 期 日	平成23年11月19日(土)		平成23年11月20日(日)		
合 格 発 表 日	平成23年12月2日(金)				
そ の 他	詳細は、「推薦入試学生募集要項」によります。 実技検査の概要については18頁を参照してください。				

別表10-2

## 推 薦 入 試 方 法

実施学部	経 済 学 部			
募集人員 60名 (A推薦 40名) (B推薦 20名)	学 科	A推薦	B推薦	計
	経 済 学 科	13名	8名	21名
	フ ァ イ ナ ン ス 学 科	5名	2名	7名
	企 業 経 営 学 科	6名	4名	10名
	会 計 情 報 学 科	5名	2名	7名
	情 報 管 理 学 科	5名	2名	7名
	社 会 シ ス テ ム 学 科	6名	2名	8名
出 願 要 件	A 推 薦 (40名)	<p>次の各号のすべてに該当する者で、学業成績優秀で高等学校長が責任をもって推薦できる者。</p> <p>(1) 高等学校（特別支援学校の高等部及び中等教育学校の後期課程並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を含む。以下同じ）を平成24年3月卒業見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む）</p> <p>(2) 高等学校の調査書における学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 合格した場合は、入学することを確約できる者</p>		
	B 推 薦 (20名)	<p>次の各号のすべてに該当する者で、学業成績優秀で高等学校長が責任をもって推薦できる者。</p> <p>(1) 高等学校の商業に関する学科又は高等学校の総合学科などを平成24年3月卒業見込みの者（学年の途中において又は学期の区分に従い高等学校の卒業を認められる者を含む）</p> <p>ただし、総合学科など商業科以外の学科にあつては商業又は情報に関する教科・科目を合わせて20単位以上修得（見込みを含む）した者</p> <p>(2) 高等学校の調査書における学業成績の全体の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(3) 次の検定試験のいずれかに合格している者</p> <p>ア. 日本商工会議所主催簿記検定試験 2級以上</p> <p>イ. 財団法人全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験 第1級</p> <p>ウ. 経済産業省主催情報処理技術者試験</p> <p>エ. 財団法人全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 第1級</p> <p>(4) 合格した場合は、入学することを確約できる者</p>		
選 抜 方 法	<p>個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、第1次選考及び第2次選考により行います。</p> <p>(1) 第1次選考 小論文（A推薦は英文資料による出題を含み、B推薦は含まない）と高等学校長から提出された推薦書、調査書を併せ審査して選考します。</p> <p>(2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対して面接（討論形式）を行い、第1次選考成績とも併せ、総合的に選考します。</p>			
出 願 期 間	平成23年11月1日(火)～11月7日(月)			
選 抜 期 日	第1次選考	平成23年11月12日(土)		
	第2次選考	平成23年11月26日(土)		
合 格 発 表 日	第1次選考	平成23年11月18日(金)		
	第2次選考	平成23年12月2日(金)		
推 薦 人 員	高等学校長が推薦できる人員は、1校につき3名以内とします。			
そ の 他	詳細は、「推薦入試学生募集要項」によります。			

別表11-1

## 帰国子女入試方法

実施学部	教 育 学 部
募集人員	学校教育教員養成課程 } 若干名 環境教育課程 }
出願要件	<p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けている者（保護者が先に日本に帰国した後、引き続き単身で在留した者又は在留している者を含む）のうち、次のいずれかに該当する者。ただし、(1)又は(2)にあっては、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において教育を受けた期間とはみなしません。</p> <p>(1) 外国において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を2010年4月1日から2012年3月31日までに卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者で、外国において最終学年を含め2学年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者</p> <p>(2) 外国において、2学年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けた後、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を中途退学し、引き続き日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）の第3学年に編入学を認められた者で、平成23年3月に卒業した者又は平成24年3月に卒業見込みの者</p> <p>(3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を2010年又は2011年に授与された者で、2012年4月1日現在において18歳に達した者</p> <p>(4) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を取得し、一般的大学入学資格証明書を2010年又は2011年に授与された者で、2012年4月1日現在において18歳に達した者</p> <p>(5) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得し、バカロレア資格証書を2010年又は2011年に授与された者で、2012年4月1日現在において18歳に達した者</p>
選抜方法	<p>個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、小論文、面接及び実技検査等の成績と出願書類を総合して判定します。</p>
出願期間	<p>平成23年11月1日(火)～11月7日(月)</p>
選抜期日	<p>平成23年11月19日(土)</p>
合格発表日	<p>平成23年12月2日(金)</p>
その他	<p>詳細は、「帰国子女学生募集要項」によります。 実技検査の概要については18頁を参照してください。</p>

別表11-2

## 帰国子女入試方法

実施学部	経 済 学 部
募集人員	経済学科 ファイナンス学科 企業経営学科 会計情報学科 情報管理学科 社会システム学科 <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</span> 若干名
出願要件	<p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けている者（保護者が先に日本に帰国した後、引き続き単身で在留した者又は在留している者を含む）のうち、次のいずれかに該当し、かつ、2009年11月以降に「TOEFL-PBT」「TOEFL-iBT」いずれかの試験を受験した者。ただし、(1)又は(2)にあっては、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において学校教育を受けた期間とはみなしません。</p> <p>(1) 外国において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を2010年4月1日から2012年3月31日までに卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者で、外国において最終学年を含め2学年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者</p> <p>(2) 外国において、2学年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けた後、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を中途退学し、引き続き日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）の第3学年に編入学を認められた者で、平成23年3月に卒業した者又は平成24年3月に卒業見込みの者</p> <p>(3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を2010年又は2011年に授与された者で、2012年4月1日現在において18歳に達した者</p> <p>(4) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を取得し、一般的大学入学資格証明書を2010年又は2011年に授与された者で、2012年4月1日現在において18歳に達した者</p> <p>(5) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得し、バカロレア資格証書を2010年又は2011年に授与された者で、2012年4月1日現在において18歳に達した者</p>
選抜方法	<p>個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、TOEFLの成績、日本語による小論文及び面接の成績と出願書類を総合して判定します。</p>
出願期間	<p style="text-align: center;">平成23年11月11日(金)～11月17日(木)</p>
選抜期日	<p style="text-align: center;">平成23年12月3日(土)</p>
合格発表日	<p style="text-align: center;">平成23年12月16日(金)</p>
その他	<p>詳細は、「帰国子女学生募集要項」によります。</p>

別表12-1

## 社会人入試方法

実施学部	教 育 学 部
募集人員	学校教育教員養成課程 } 若干名 環境教育課程 }
出願要件	<p>平成24年4月1日現在の満年齢が23歳に達した社会人で、次の各号のいずれかに該当する者。</p> <p>(1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者</p> <p>(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>(3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p>
選抜方法	<p>個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、小論文及び面接を課し、その成績と出願書類を総合して判定します。</p>
出願期間	<p>平成23年11月1日(火)～11月7日(月)</p>
選抜期日	<p>平成23年11月19日(土)</p>
合格発表日	<p>平成23年12月2日(金)</p>
その他	<p>詳細は、「社会人学生募集要項」によります。</p>

別表12-2

## 社会人入試方法（昼間主コース）

実施学部	経 済 学 部
募集人員	経済学科 ファイナンス学科 企業経営学科 会計情報学科 情報管理学科 社会システム学科 <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</span> 若干名
出願要件	平成24年4月1日現在の年齢が22歳以上の社会人で、次のいずれかに該当する者。 (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、TOEIC公開テストの成績、小論文及び面接の成績と出願書類を総合して判定します。
出願期間	平成23年11月11日(金)～11月17日(木)
選抜期日	平成23年12月3日(土)
合格発表日	平成24年1月20日(金)
その他	詳細は、「社会人学生募集要項」によります。

別表12-3

## 社会人入試方法（夜間主コース）

実施学部	経済学部		
募集人員 50名	学 科	1種	2種
	経 済 学 科	4名	5名
	フ ァ イ ナ ン ス 学 科	3名	5名
	企 業 経 営 学 科	3名	5名
	会 計 情 報 学 科	3名	5名
	情 報 管 理 学 科	3名	5名
	社 会 シ ス テ ム 学 科	4名	5名
	計	20名	30名
(注) 社会人夜間主コース1種における合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を2種の募集人員に加えて募集する。			
出願要件	1種 (20名)	平成24年4月1日現在の年齢が22歳以上の社会人で、次のいずれかに該当する者。 (1) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者	
	2種 (30名)	次のいずれかに該当する者。 (1) 大学入学資格を有する者（平成24年3月取得見込みを含む）で入学後就業しながら勉学する予定の者 (2) 平成24年3月高等学校卒業見込みの者で就職を予定している者	
選 抜 方 法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、小論文及び面接の成績と出願書類を総合して判定します。		
出 願 期 間	1種及び2種 平成23年11月11日(金)～11月17日(木)		
選 抜 期 日	1種及び2種 平成23年12月3日(土)		
合 格 発 表 日	1種及び2種 平成23年12月16日(金)		
そ の 他	詳細は、「社会人学生募集要項」によります。 なお、社会人入試（夜間主コース）の合格者は、本学の一般入試などの個別学力試験等を受験しても、その合格者とはなりません。		

## V 障害等のある入学志願者の特別措置に関する事前相談

本学に入学を志望する者で、障害等により、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある者は、以下により特別措置申請書（様式は任意）を提出し相談してください。

### 1. 特別措置申請書の記載内容

- (1) 志願者の氏名、住所、連絡先電話番号
- (2) 出身学校名
- (3) 志願学部、課程・学科名
- (4) 障害等の状況（現に治療中の者は、医師の診断書を添付すること）
- (5) 受験上特別な措置を希望する事項（大学入試センターから「受験特別措置決定通知書」の交付を受けた者は、その写しを添付すること）
- (6) 修学上特別な措置を希望する事項
- (7) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）でとられていた特別な措置
- (8) 日常生活の状況

### 2. 相談の時期

一般入試 平成24年1月20日（金）まで

\*推薦入試、帰国子女入試、社会人入試については「学生募集要項」で確認してください。

### 3. 書類提出先

〒522 - 8522

彦根市馬場一丁目1番1号

滋賀大学入試課入学試験係

電話 0749（27）1023

## VI 入学料・授業料について

【教育学部】【経済学部昼間主コース】

1. 入学料 282,000円    2. 授業料 267,900円（前期分）[年額 535,800円]

【経済学部夜間主コース】

1. 入学料 141,000円    2. 授業料 133,950円（前期分）[年額 267,900円]

(注) 上記の金額は予定です。改定される場合があります。

## VII 入学試験情報の開示について

滋賀大学においては、次の入試情報について開示します。ただし、入試の適正な実施や個人情報保護等のため不開示部分があります。

- ◎ 志願者数・受験者数・合格者数・試験問題・追加合格者数・入学者数・入学辞退者数
- ◎ 出題方針
- ◎ 可否判定基準
- ◎ 合格最高・最低点及び合格者の平均点等の合格者の成績についての資料
- ◎ 入試実施組織
- ◎ 正解・解答例
- ◎ 試験成績（本人からの請求に限る）
- ◎ 調査書（本人からの請求に限る）

詳細については、おって「学生募集要項」に記載しますので、参照してください。

## Ⅷ 学生募集要項の発表及び請求方法

### 1. 発表時期

平成24年度の募集人員，出願方法，個別学力検査等の実施内容，その他入学に要する経費等必要な事項を記載した「学生募集要項」の発表時期は，次のとおりです。

- ① 一般入試学生募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・11月上旬
- ② 推薦入試学生募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・9月上旬
- ③ 帰国子女学生募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・9月上旬
- ④ 社会人学生募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・9月上旬

### 2. 請求方法

① テレメール（インターネット，自動音声対応電話）で請求する場合

a. 一般入試学生募集要項（受付期間：平成23年9月1日～平成24年1月25日）

b. 推薦入試・帰国子女・社会人学生募集要項

（受付期間：平成23年9月1日～平成23年11月11日）

インターネット（携帯電話・パソコン）または自動音声対応電話をご利用ください。



テレメール

インターネット(携帯電話・パソコン)の場合		電話の場合	
<a href="http://telemail.jp">http://telemail.jp</a> 携帯電話，パソコンとも共通アドレスです。		I P 電話	TEL (050) 8601-0101
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。			

※ I P 電話：一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約11円です。希望する資料番号（6桁）をプッシュまたは入力してください。

【大学案内】	5 6 4 2 9 2
【教育学部案内】	5 6 4 5 3 2
【一般入試学生募集要項】	5 8 4 4 5 2
【一般入試学生募集要項と大学案内】	5 4 4 4 5 2
【推薦入試・帰国子女・社会人学生募集要項】	5 8 4 4 6 2
【推薦入試・帰国子女・社会人学生募集要項と大学案内】	5 4 4 4 6 2

あとは音声ガイダンスに従って登録してください。

- \* 受付から2～3日程で届きます。ただし，資料完成日までの請求は予約受付となります。
- \* 住所，名前の登録時には，ゆっくりはっきりと自分の声で吹き込んでください。登録された音声の不鮮明な場合は到着まで時間がかかる場合があります。
- \* 送料は，お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払ください。（支払いに際して手数料が別途必要になります。）

② 大学のホームページから請求する場合

大学のホームページから直接資料請求ができます。  
詳しくは、巻末「入試情報サービス」をご覧ください。

③ 郵便局で請求する場合

一般入試学生募集要項（10月より受付開始）

郵便局（簡易郵便局除く）に設置される「国公立大学・短期大学及び通信教育課程，大学校募集要項（願書）請求申込書」（郵便局用願書請求カタログ）に必要事項を記入のうえ，送料と払込手数料120円を添えて最寄りのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口でお申し込みください。受付から1週間程で資料が届きます。ただし，資料完成日までの請求は予約受付となります。郵便局用願書請求カタログは9月以降，高等学校で入手できる場合もあります。

送料	【大学案内】	240円
	【一般入試学生募集要項】	390円
	【一般入試学生募集要項と大学案内】	390円

→上記①，②，③の請求方法についてのお問い合わせは下記へお願いします。

テレメールカスタマーセンター

電話 050-8601-0102

（9時30分～18時）

④ 滋賀大学にて直接受領する場合

滋賀大学入試課，経済学部又は教育学部において直接受領（祝日等を除く月～金曜日9時～17時までの間）することもできます。

なお，祝日等及び月～金曜日9時～17時以外については，両学部の守衛所（正門横）において直接受領することもできます。

⑤ 滋賀大学大津サテライトプラザで直接受領する場合

滋賀大学大津サテライトプラザ（JR大津駅前平和堂アル・プラザ大津5階）において直接受領（年末年始及びお盆を除く10時～18時までの間）することもできます。

⑥ 大学サテライト・プラザ彦根で直接受領する場合

大学サテライト・プラザ彦根（JR彦根駅前平和堂アル・プラザ彦根6階）において直接受領（年末年始，お盆及び祝日等を除く月～金曜日9時30分～18時までの間）することもできます。

# 教育学部のアドミッション・ポリシー（学生受け入れ方針）

## 1. 教育学部の理念

### ア) 学部の独自性

本学部は滋賀師範学校をおもな母体として設置され、その前身は明治8年にさかのぼります。以来今日まで、一貫して滋賀県を中心に学校教育を担う人材を輩出してきました。常に地域の教育の中核として、附属学校園や地域の教育機関との連携のもとに、実践的指導力の養成に力を注いでいます。

教育に対する期待がますます増大している現代において、特色ある教育学部の創出を目指します。そのために学校教育の現場で活躍する教員を養成するとともに、地域教育への貢献を組織的に推進するための教育の拠点としての機能を一層強化します。さらに、琵琶湖の環境、教育における国際化や情報活用に関する特色ある学際的・総合的研究を推進します。

### イ) 学部理念

現代社会はさまざまな問題を抱えながら、目まぐるしい変化を続けています。私たちの学部は、現代社会の今日的な諸問題に積極的に対応できると同時に、問題解決能力をもった人材養成をめざしています。また、人間形成にも重きをおき、学生一人ひとりの知的教養を磨き、芸術・文化・自然などに対する感受性を養うとともに、ひとに対して深い共感と理解を示し、専門知識に正しく基礎づけられた豊かな人格形成を目標としています。

## 2. 求める学生像

私たちの学部では、次のような人を求めています。

- 変化の激しい社会を主体的に生き、よりよい社会の創造に貢献できる人々を育てる教師や指導者をめざす人
- 学校教育、環境教育に高い関心をもち、教育の諸問題に自ら積極的に取り組む意欲や熱意のある人
- これらの課題の追究や解決に必要な幅広い基礎的知識、論理的思考力・コミュニケーション能力、豊かな感受性を備えた人

## 3. 入学者選抜の基本方針

本学部の教育理念・目標に合致する学生を選抜するために、さまざまな評価の観点から多様な入学者選抜を実施し、志願者の能力や資質を総合的に評価し、判定します。

## 4. 各選抜方法の趣旨

本学部では、一般入試（前期日程・後期日程）のほかに、推薦入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、帰国子女入試という多様な入学者選抜を行っています。

### (1) 一般入試

前期日程では、大学入試センター試験の成績と、個別学力検査（文系型、理系型、面接型、実技型）の成績を総合的に評価し、合否を判定します。

後期日程では、大学入試センター試験の成績と、小論文、面接などの成績を総合的に評価し、合否を判定します。

### (2) 推薦入試

推薦入試には一般推薦と地域推薦があり、学力試験でははかれない側面（たとえば、志望動機、入学後の学習意欲、本学部の教育理念への適合性など）に重点をおいた入学者選抜を行います。一般推薦は、学校教育や環境教育に高い関心を持ち、学校教員など地域の教育に貢献できる人材を求めます。地域推薦は、滋賀県内の高等学校に在籍する生徒を対象として、将来滋賀県で学校教員を目指す人材を求めます。どちらの推薦入試も大学入試センター試験と個別学力試験を課さず、高等学校長からの推薦書に基づき、調査書、小論文、面接、専門課題、集団討論などの成績を総合して合否を判定します。

(3) **社会人入試**

本学部では、社会人の大学教育への期待に応えるために、両課程において社会人を受け入れます。社会人入試では、大学入試センター試験を課さず、小論文および面接の成績と出願書類を総合して合否を判定します。

(4) **私費外国人留学生入試**

私費外国人留学生入試では、独立行政法人日本学生支援機構が実施している「日本留学試験」の指定する教科・科目の成績、本学部が実施する学力試験（実技を含む）の成績、面接および出願書類を総合して合否を判定します。

(5) **帰国子女入試**

帰国子女入試では、小論文、面接、専門課題などの成績を総合して合否を判定します。

## 1. 経済学部の理念

### (1) 建学の理念と誇りうる独自性

本学部の前身、彦根高等商業学校は、建学の精神として「士魂商才」を謳い、それに対し養成すべき人材としての相互扶助・社会奉仕的精神をもった商業的技術の専門家という独特の意味を付与しました。それは、地域社会への奉仕・貢献を前面に出し利益追求を副次的とする近江商人の精神と大きく合致するものでした。こうして、幕末期彦根藩が示していた視野の開明性・先見性と教養重視の伝統とも相俟って、彦根の地に、高い人格と豊かな教養を備え地域社会にも貢献できる専門職業人の養成の場が創り出されました。

そうした彦根高商の伝統を受け継いで、第二次世界大戦後、発足した滋賀大学経済学部は、経済界等に多くの優れた人材を輩出しながら、社会と地域の要請に応じて大きな発展を遂げてきました。そして、古来より近畿・東海・北陸の経済的文化的交流点であり、琵琶湖をかかえ環境意識の高い滋賀県に立地する国立大学経済学部である本学部は、そうした学部としては、全国最大規模の陣容を整えていること、特に国立唯一のファイナンス学科および人文・社会・自然諸科学の学際的研究教育を担う社会システム学科を含めて、6学科・修士3専攻・博士1専攻を有する総合的性格をもつ経済学部であること、附属史料館は、中世社会に関する我が国第一級の貴重な史料をはじめとして、近世近代の古文書群を所有し、近江商人・近江地域史研究の拠点になっていること、等の独自性を備えるに至っています。

### (2) 学部の教育理念

21世紀を迎えて滋賀大学経済学部は、これまでの実績と伝統に安住することなく、独自の工夫をこらした改革を進め、急激に変化する社会と地域の要請に応え、有為の人材の養成とより高次の知識創造・学術文化に資する高等教育機関としての発展を目指しています。滋賀大学経済学部は、建学の精神を現代に活かした教育理念として「国際的な視野をもち、環境に配慮しつつ地域社会にも貢献できる、個性ある専門職業人の養成（グローバル・スペシャリストの養成）」を掲げ、その資質として三つの識「意識・知識・見識」（問題意識・専門知識・規範意識）の涵養とそれを基礎にした問題探求能力の育成をモットーにしています。

## 2. 求める学生像

滋賀大学経済学部は、学部の教育理念・目標に基づき、次のような人を求めています。

- 経済・社会問題に関心をもち、かつ本学部で学ぶために必要な基礎的知識と、論理的思考力・読解力、コミュニケーション能力・表現力を備えている人
- みずから課題を見出し、本学部の多様な科目・履修コースを主体的に選択して、問題探求能力を高めようとする意欲をもった個性豊かな人
- 大学で修得した専門知識と教養を活かし、卒業後、積極的に国際社会・地域社会に貢献しようという意志をもった人

- ※ 本学部を志望する高校生諸君へ — 本学部が求める学習経験  
本学部への入学を希望する高校生は、とくに以下のことを念頭に置いて学習に取り組んでください。

英語・国語の学習は、本学部で学ぶための最も基礎的な能力である論理的思考力・読解力や、コミュニケーション能力・表現力を培うものです。こうした能力は短期間で簡単に身につくものではありません。じっくりと取り組むことを期待します。数学の学習は、本学部で学ぶ分野の多くで求められる数理的な思考法や知識を養うために必要です。

また、本学部で主体的・創造的に学ぶためには、経済・社会に対する幅広い知識とともに、特定の分野や問題に深い興味や関心をもつことも大切です。地歴・公民や理科の学習、総合的な学習の時間、さらにはボランティア活動等を含めた課外活動を通じて、経験の習得に努めると同時に、自分の興味や関心を問い直し、みずからの個性や独創性を活かすことのできる分野や問題を見つけるようにしましょう。

### 3. 本学部の入学者選抜の基本方針

本学部の教育理念・目標に適合する学生を選抜するために、多様な入学者選抜を実施し、多元的な評価尺度を用いて志願者の能力・資質を適切に評価・判定します。

### 4. 各選抜方法の趣旨

経済学部では、一般入試（前期日程・後期日程）の他に、推薦入試（A推薦・B推薦）、社会人入試（昼間主コース・夜間主コース）、私費外国人留学生入試、帰国子女入試、3年次編入試という多様な入学者選抜を行い、様々な評価尺度を用いて、本学部の教育目標達成のために必要な基礎的な能力や資質を備えた人材を受け入れることをめざしています。

#### (1) 一般入試

本学部では一般入試の前期日程、後期日程の募集定員がそれぞれ200名、240名であり、後期日程にも多くの定員を当てているのが特徴です。

また、前期・後期の両日程において、広範囲にわたる基礎学力の修得度をみるためにセンター試験を5教科7科目利用する採点方式を取り入れるとともに、本学部での学習の核となる能力を示す科目における高い習熟度をみるためのセンター試験3教科型（国語／外国語／数学または地歴・公民から1科目）の採点方式をも併用して順位を決定する新しい選抜制度を導入しています。

個別学力試験においては、前期日程、後期日程ともに、英語と国語、あるいは英語と数学の2教科の試験を課して、本学部で学ぶために必要な基礎的な能力を評価します。

本学部は、「センター試験5教科7科目＋個別学力試験」の採点方式に加えて、「センター試験3教科＋個別学力試験」の採点方式を併用することによって、多様な志願者に受験機会を保障するとともに、センター試験を5教科7科目受験した志願者についても、基礎的な能力に特化したもう一つの尺度を併用して多元的に評価することにより、高い潜在能力を持ちながら多数の科目の合計点だけでは十分に評価され難い個性的な人材をも受け入れることをめざしています。

#### (2) 推薦入試

本学部の推薦入試は、普通高校出身者が主な対象のA推薦入試（募集人員40名）と、商業科、あるいは商業・情報系の学科出身者が対象のB推薦入試（募集人員20名）の二通りの選抜を行います（出願資格等の詳細については「選抜要項」・「募集要項」を参照してください）。経済社会問題に深い興味を抱き、本学への進学を特に強く希望する志願者を対象に、出身高等学校長の推薦書等に基づき、一次選考として「小論文」を課し、その合格者に対して二次選考の「面接」を行い、それらと推薦書・調査書（B推薦においては取得資格も含む）等を総合して可否を判定します。

「小論文」では、資料（A推薦では英文資料も含む）の読解力、課題に対する論理的思考力、主張の的確性、文章の表現力等をみます。「面接」は、与えられたテーマに関して討論を行う能力を主としてみます。

(3) **社会人入試**

社会人としての多様な経験を有する人たちの大学教育への期待に応えるために、本学部では、昼間主コース、夜間主コースの二つのコースを用意して社会人を積極的に受け入れています。

昼間主コースの選抜においては「TOEIC公開テスト」の成績と、本学部が実施する「小論文」、「面接」の成績等を総合して、夜間主コースの選抜においては「小論文」と「面接」の成績等を総合して合否を判定します。

「小論文」では、出題されたテーマ（または課題文）に関する理解力、論理的な思考力、主張の妥当性、文章・論旨の構成力・表現力を重視します。

(4) **私費外国人留学生入試**

独立行政法人「日本学生支援機構」が実施している「日本留学試験」の「日本語」、「日本語・記述」、「理科又は総合科目」、「数学（コース1又はコース2）」の成績と、本学部が実施する学力試験の「英語」、「面接」、等の成績を総合して合否を判定します。

「英語」の試験では、本学部での学習に必要な基本的な文法力、英文理解力、語彙力、英文表現力をみます。「面接」では、日本語による会話・コミュニケーション能力等についてもみます。

(5) **帰国子女入試**

TOEFLの成績と本学部が実施する学力試験の「小論文」、「面接」等の成績を総合して合否を判定します。

「小論文」の試験では、出題されたテーマ（または課題文）に関する理解力、論理的思考力、日本語の文章の構成力・表現力をみます。

(6) **3年次編入試験**

他大学、短大、高等専門学校、専修学校等からの編入生を受け入れるための試験で、「TOEIC公開テスト」の成績と「面接」の成績を総合して合否を判定します。

# 学 部 案 内

## 大学の概要

### 1. 沿革

本学は、国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、滋賀師範学校、滋賀青年師範学校及び彦根経済専門学校（前身は彦根高等商業学校）の3校を母体とし、学芸学部（昭和41年から教育学部と名称変更）及び経済学部の2学部をもって発足し、平成16年4月国立大学法人法（平成15年法律第112号）により国立大学法人となりました。

また、昭和48年9月には、大学院経済学研究科（修士課程）が、平成3年4月には大学院教育学研究科（修士課程）がそれぞれ設置されました。さらに平成15年4月には、大学院経済学研究科に博士後期課程が設置されました。

本学の前身である旧制各校の歴史は古く、明治、大正、昭和と輝かしい伝統を築きながら発展し、各界に多くの人材を送り出しています。

### 2. 国際交流

本学とミシガン州立大学連合（アメリカ合衆国）、ディーキン大学（オーストラリア）、湘潭大学、東北財経大学（以上中国）、チェンマイ大学、40地域総合大学、プリンス・オブ・ソンクラ大学、泰日工業大学、チェンマイ・ラジャパット大学（以上タイ）、大田大学、啓明大学（以上韓国）、グアナファト大学（メキシコ）、ハノイ教育大学、ハノイ国民経済大学（以上ベトナム）、人文大学（モンゴル）、高雄海洋科技大学、国立高雄大学（以上台湾）との間で学術交流協定が結ばれ、学生の交流をはじめとして、教育研究等の相互協力が図られています。

平成22年度は、本学からミシガン州立大学（3名）、東北財経大学（2名）、チェンマイ・ラジャパット大学（1名）ディーキン大学（1名）に「日本学生支援機構短期推進制度」及び私費により交換留学生を派遣しています。さらに、春季、夏季休業期間を利用して、ミシガン州立大学夏季語学研修、韓国語・文化研修、ディーキン大学オーストラリア研究、東北財経大学中国語研修の語学研修及び異文化体験プログラムを実施しています。

### 3. 学生生活

本学には、日本学生支援機構及び地方公共団体並びにその他財団法人の奨学制度があり、在学生の約30%が奨学生として採用されています。また、経済的理由により納付が困難な者で、学業優秀な者等を対象とした授業料等の免除制度があります。

課外活動については、個性豊かな文化系・体育系のクラブやサークルがいくつもあり、どれも活発に活動しています。特に湖国近江の地の利を生かしたクラブ活動が盛んに行われています。

学寮は、秩序ある団体生活を体験することにより、自治協同の精神を養うことを目的としており、教育学部には平津ヶ丘寮（男子28名、女子39名収容）、経済学部には偲聖寮（男子137名、女子30名収容）があります。

### 4. 研究施設

- 「図書館」は、大学の教育及び研究活動を支えるために必要な情報や資料を収集・提供しています。教育・経済関係の専門図書はもとより、教養教育図書の充実にも努めています。電子ジャーナル、DVD等の電子情報、視聴覚資料も整備し提供しています。また、全国の大学図書館とのネットワークによる相互協力関係を構築し、本学にない資料を入手するための文献複写・図書貸借サービスも実施しています。図書館は誰もが自由に利用できる、大学における知的空間であり、実りある大学生活を支援するみなさんの施設です。
- 「生涯学習教育研究センター」は、学内共同教育研究施設として、生涯学習に関する地方自治体との共同研究、生涯学習に資する講座の開設等の業務を行い、よりよい生涯学習社会の実現に資することを目的として設置されています。
- 「産業共同研究センター」は、平成5年から学内共同研究施設として設立され、次世代の産業のシーズを育成する全学の施設として設置されました。特に、産官学連携等を主眼に、開かれた大学と民間

企業、自治体等地域社会との交流の接点となり、本学の持つあらゆる資源を社会に有効に還元することにより、地域の発展に寄与し、社会のニーズを直接に把握することで教育研究を一層活性化することをめざしています。

- 「情報処理センター」は、学術研究、情報教育、大学経営を目的とした情報基盤を運営する学内共同教育研究施設です。演習室のコンピュータでは、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのソフトウェアを利用する情報リテラシー教育をはじめ、データベース、プログラミング言語、高度な数値処理や統計解析ソフトウェアを利用する専門科目等、さまざまな情報教育が行われています。また、課外の時間には情報収集や論文作成などが快適に行えるコンピュータの利用環境を提供しています。さらに、語学教育のための e-Learning システムを取り入れ、TOEICやTOEFL受験に備えて英語の学力を伸ばす実習環境を整えています。
- 「環境総合研究センター」には、持続可能な社会の実現に向けた、地球環境から地域環境に至る様々な課題分野の学際的研究を推進するため、次の5部門が設置されています。第1は湖沼・流域研究部門、第2は環境経済研究部門、第3は環境政策研究部門、第4は環境教育研究部門、そして第5は地域・生活環境研究部門です。また、多様な研究の切り口と幅広い研究連携を追求する目的で、学内の多くの研究員が参加する複数のプロジェクト研究が遂行されています。センターは、こういった部門活動やプロジェクト研究のみならず、地域の他の研究機関、行政機関、NGOなどと連携した環境分野の人材育成や地域・国際貢献をめぐる取り組みにも重要な役割を果たしています。
- 「国際センター」は学内共同教育研究施設として、学内の国際的教育、研究活動の支援、海外研修、交換留学を希望する学生への支援、留学生の生活・学習面での支援、地域の国際的な活動への支援を行っています。
- 「地域連携センター」は、滋賀大学の地域貢献の推進を円滑に実施することを目的に、自治体等と連携した地域のまちづくり支援とともに、自治体の実施している事業の必要性を仕分けする等の自治体支援を行っています。

## 教 育 学 部

### 1. 立 地

本学部は天津市の南部、琵琶湖から流れる瀬田川のほとりの小高い丘陵地にあります。紫式部で名高い石山寺、松尾芭蕉が暮らした幻住庵など、大学から歩いて行ける距離にはいくつもの史跡があり、通学の往復路は瀬田川に沿って美しい景観が展開します。キャンパスは15万平方メートルの敷地を有し、勉強、スポーツや文化活動等を通じ友情を深めるのに最適な環境を整えています。その一方で、最寄のJR石山駅へは京都駅から約15分、大阪駅からは約45分とアクセスに恵まれています。

### 2. 学部概要

本学部は教員養成に長い歴史をもち、これまで多数の教育者を育ててきました。卒業生の方々が滋賀県をはじめ全国で活躍されています。本学部は、こうした実績を踏まえ、様々な教育課題に対応できる実践的指導力を備えた教員の養成を目指しています。

本学部は学校教育教員養成課程と環境教育課程で構成されています。

### 3. 課程の紹介

#### (1) 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程のカリキュラムは三つの柱からなっています。一つ目は教育の意義や歴史、教育方法などを学ぶ教員養成基本科目です。二つ目は、実際に小中学校などへ行き、教育実習や学校ボランティア活動など、子どもと直接ふれあう経験を通して実践的指導力を身に付けていくための教育参加科目です。三つ目は、教科の授業力を向上するための得意分野育成科目であり、この中には、いじめ・不登校問題や環境問題、国際理解教育など学校教育や現代社会が抱えている課題を解決するための基礎を学ぶ科目も含まれています。

学生同士が切磋琢磨し、アットホームな雰囲気でのゼミなどで教員から指導が受けられる環境の下、これら三つの柱を関連づけて学びながら、知の探求と実践的力量的の向上をめざし、充実した大学生活を送ることができます。

学校教育教員養成課程は、初等教育コース・中等教育コース・障害児教育コースの3コースから構成されており、初等教育コースと中等教育コースは、さらに、教科の専攻・専修に分かれます。各専攻・専修の概要は、次のとおりです。

①初等教育コース 教育文化専攻

教育を、地域、家庭、メディアなどの空間的広がりや、人間の生涯にわたるライフコースの中に位置づけ、それを基に学校教育の意義を多面的にとらえることのできる新しいタイプの教員の養成をめざしています。さらに教育に関する各専門的知識とともに、広く人文・社会科学の教養、また音楽、美術などの表現文化やスポーツに関する知識や感性を身につけることによって、社会教育主事など社会教育分野を中心に、クリエイティブな能力が必要とされる領域でも活躍できる人材を養成します。主な分野としては、教育哲学、生涯学習、教育社会学、西洋教育史、教育制度、教育方法学、芸術と社会、郷土の文化と芸能があります。

②初等教育コース 学校心理専攻

児童・生徒の学習過程や学校生活、さらには生徒指導・進路指導などに関する学校教育現場のさまざまな事象から、心理的な視点に立って課題を専門的かつ総合的に見出し、それを解決する能力と、人に対する深い理解と関心に支えられたカウンセリング・マインドをもつ教員の養成をめざしています。主な教育・研究分野としては、教育心理学、発達心理学、人格心理学、進路指導等があります。

③初等教育コース 学校臨床専攻

今日の社会や子どもを取り巻く状況の変化に対応し、子ども・教室などの事例に寄り添う臨床的な実践研究をとおして、子どもの学びを中軸にする柔軟な学級づくり・学校づくりの実践を担うことができる教員の養成をめざします。子どものサポートができ、いじめや学級崩壊などの問題を越えられるとともに、学校の今後のあり方を構想できる力をはぐくむ実践力と見識を追求します。主な教育・研究分野としては、学校臨床教育入門、スクールカウンセリング概論、学校づくりの事例研究などがあります。

④初等教育コース 幼児教育専攻

人間教育の基礎となる幼児期の重要性を踏まえた上で、幼児の身体及び心理社会的発達特徴、保育の現代的問題、そして小学校教育との連携などについて理解し、幼児教育を多面的に捉えることのできる幼稚園教員の養成を目指します。また、所定の科目を修めることで保育士資格を取得することもでき、子どもの教育・福祉に関して幅広い領域で活躍できる資質を身につけることができます。

⑤初等教育コース 国際理解教育専攻

異なった国や民族の人々の歴史・文化・生活を互いに尊重し、理解し合うことのできる国際的な視野を持った子どもを育てるための理論と方法について学びます。特に、感性的側面（美術・音楽）、身体的側面（スポーツ）、言語的側面を中心としたカリキュラムを用意し、学校における国際理解教育のリーダーとして活躍できる教員、さらに、日本の学校に在籍する外国籍の児童・生徒に対する教育支援のできる教員の養成をめざします。

⑥初等教育コース 初等教科専攻 国語専修

中等教育コース 国語専攻

初等教育コースでは、国語教育に対する広い視野と問題意識をもって、初等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、児童・生徒の実態に即した指導プランを構想し実践できる教員の養成を目指します。専門分野としては、国語学・古典文学・近現代文学・漢文学・書道・国語科教育があります。初等教育コースは、上記のいずれかを得意分野とする小学校教員を志望する人が対象となります。

中等教育コースでは、国語教育に対する広い視野と問題意識をもって、中等教育におけるカリキュラムや教材を開発し、生徒の実態に即した指導プランを構想し実践できる教員の養成を目指します。専門分野としては、国語学・古典文学・近現代文学・漢文学・書道・国語科教育があります。中等教育コースは、中学校・高等学校の国語科教員を志望する人が対象となります。また、高等学校の書道科教員への道も開けています。

⑦初等教育コース 初等教科専攻 社会専修

中等教育コース 社会専攻

初等および中等段階の社会科教育を担える教員の養成をめざしています。現代の社会は、変化が激しく、また異なる文化と価値観の共存や国際協調が必要な社会になっています。このような社会で、社会に対する深い理解に基づき、諸問題の解決に取り組み、よりよい社会の形成に参画するための資

質や能力が求められています。このような資質や能力を育成するための社会科教育を担える教員の養成をめざしています。そのため、高等学校まで社会科や地歴科・公民科すべてに自信のある生徒を求めています。初等教育コースでは、社会や社会生活に対する生徒の関心を高め、それらに対する理解を深めるための教育ができる教員を養成します。中等教育コースでは、地理・歴史・公民分野の専門的な知識を基礎にして、幅広い視野と関心から、中等教育にふさわしい内容と方法で、それらを教えることのできる教員を養成します。

⑧初等教育コース 初等教科専攻 算数専修

中等教育コース 数学専攻

小・中・高と学年が進むにつれて「算数・数学嫌い」は増える傾向にあります。授業を通じてこれに対処するために、教師は「こどもたちが算数・数学をどのように理解していくのか」「どこでつまづくのか」など、児童・生徒の実態を十分に把握するとともに、算数・数学へ広い関心を持ち、それらの内容に関する深い知識を身につけることが必要です。教科の内容と教科の指導法を融合して学べるようにカリキュラムが構成され、子どもの実態を把握する力と数学の幅広い知識をバランスよく持った実践力のある教員の養成を目指しています。

⑨初等教育コース 初等教科専攻 理科専修

中等教育コース 理科専攻

自らも理科を楽しみながら理科の面白さを伝えられる教員の養成を目指しています。自然界の事象に対する疑問について、観察・実験を通して児童・生徒自らが考え、その答えを見つけられるように指導や支援を行うことが重要と考えます。そのためには、児童・生徒の目線で考える姿勢や自然科学の理論体系を含めた理科の幅広い知識を養う必要があります。

初等教育コースでは、小学校教科の中でも理科を得意分野とすることができるように、物理・化学・生物・地学各教科専門教員の指導により小学校理科の観察・実験に必要な技能を身に付け、さらに理科教育学専門教員から児童・生徒の考え方を学びます。

中等教育コースでは、中学校・高校の理科教員に必要な専門知識や専門分野の理解を深めるための講義や演習の受講、最先端研究に関する知識の習得などを行います。それと共に理科の効果的な指導法や理科教育学について専門的に学びます。

⑩初等教育コース 初等教科専攻 音楽専修

中等教育コース 音楽専攻

現代の子どもたちを取り囲む様々な状況において、音楽教育の果たす役割はますます重要になってきています。音楽教育が人間形成に及ぼす影響力は大きく、常に新しい可能性が感じられる分野でもあります。子どもたちの豊かな感受性や表現力を育てるための理論と実践方法を、音楽の表現や鑑賞の活動を通して学びます。具体的には、音楽教育、作曲、声楽、器楽（ピアノ）、音楽理論・音楽史などの分野について基礎を習得した上で、表現の多様性や専門性を追及します。授業は、音楽科教育等のクラス授業のほかに、声楽、器楽（ピアノ）のレッスンや作曲の作品制作指導、音楽教育の論文指導など、きめ細かな個人指導を重視しています。初等教育コースでは、音楽を得意とする幅広い視野を持った小学校教員を、中等教育コースでは、音楽の専門性の高い教員を養成します。

⑪初等教育コース 初等教科専攻 図画工作専修

中等教育コース 美術専攻

初等教育コースでは、小学校教員として特に図画工作を得意とする教員を養成します。そのために、「図画工作科教育法」を中心に児童の発達や特性を踏まえ、「造形遊び」にみられるような子どもの主体的な造形活動を保障する授業の在り方や、広く子どもの学習活動を支える図画工作科の重要さとその意義を学びます。また、「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論」の各専門的な領域から、小学校教員として必要な表現及び鑑賞の教材開発能力及び実践方法を身につけることをめざします。

中等教育コースでは、中学校・高等学校の美術科教員を主に養成します。そのために「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論」などの制作と理論をより専門的に学ぶと共に、「美術科教育」関連科目によって美術教育の理念及び題材開発や実践方法を身につけ、美術に対する深い力量と専門性を持った教員の養成をめざします。

⑫初等教育コース 初等教科専攻 体育専修

中等教育コース 保健体育専攻

共通して体育（保健体育）に関する高い専門的知識と技能を持った教員の養成を目指しています。

そのために、理論として、保健体育科教育学、体育学（武道論、体育社会学、体育心理学など）、運動学（体力科学、運動方法学、運動生理学など）、学校保健（衛生学および公衆衛生学、学校保健）を学び、実技として、球技、水泳、陸上競技、器械運動、武道、スキー、ダンス、救急処置や看護法などを習得します。また、初等教育コースでは小学校教育の場で、中等教育コースでは中学校ならびに高等学校の保健体育科教育の場で、効果的な学習指導を展開するための教材開発や授業づくり、カリキュラムづくりについて深く探求し、実践的指導力の基礎を形成します。これらを通して、体育分野と保健分野のバランスのとれた、地域で核となって活躍できる教員を養成します。

⑬初等教育コース 初等教科専攻 情報・技術専修

中等教育コース 情報・技術専攻

科学技術や情報通信技術の基礎を学び、それらの生活への活用についての認識を深め、健全な情報社会の発展や科学技術の進歩に寄与できる実践的能力を有するとともに、生活に必要な技術を身につけ、工夫し、創造する能力をもった子どもを育てるための理論と方法について学びます。さらに、初等・中等教育における情報科教育、メディア教育、技術科教育のリーダーとして、これら3分野の教育に関するカリキュラム開発や教材研究を行い、児童・生徒の実態に即した指導計画を作成して実践することのできる優れた教員の養成をめざします。

また、e-Learningやインターネット環境を積極的に活用した学習環境の中で、文理融合の情報学、科学技術リテラシーに関する教育も推進します。このためには、情報と技術に関する広い知識の習得、ならびに各種メディアを積極的に活用できる能力が必要となります。

⑭初等教育コース 初等教科専攻 家庭専修

中等教育コース 家庭専攻

家庭科は、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識および技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、家庭生活をよりよく豊かに創造しようとする能力と態度を育成することを目標としています。小学校、中学校、高等学校の家庭科でこれらの指導に対応できる専門的・総合的実践力を備えた家庭科教員の養成をめざしています。主な教育・研究分野としては、家庭経営学、食物学、被服学、住居学、保育学、家庭科教育学などがあります。初等教育コースでは、子どもの生活を理解し、家庭科を得意とする小学校教員の育成をめざします。中等教育コースでは、家庭科教育に優れた指導力を持つ中学校教員の育成を目的とします。

⑮初等教育コース 初等教科専攻 英語専修

中等教育コース 英語専攻

英語教育に関する広い視野と高い問題意識を持ち、英語という言葉、および英語圏の文化・文学に対する専門的な知識と理解を備えて、初等・中等教育に取り組む教員を養成することを目指します。初等教育における外国語活動および中等教育における英語教育で、児童・生徒の実態に即した指導プランを構想し実践するための理論と方法を学びます。英語教育学、英語学、英米文学の各専門領域を得意分野とする小学校教員、あるいは英語科の中学校教員、高校教員を目指します。

⑯障害児教育コース 障害児教育専攻

知的障害、肢体不自由、病弱およびLDやAD／HD等の障害のある子どもたちに携わる教員の養成をめざしています。その教育の場は、特別支援学校（養護学校等）、特別支援学級（障害児学級）、通常学級に広がっています。また、地域での生活、就学前保育・教育、卒業後の生活保障など地域での一貫した取り組みが重要になっています。そのため本専攻では、障害児教育、障害児心理、障害児病理、障害児福祉の分野について総合的に学べるカリキュラムを用意しています。

(2) 環境教育課程

環境問題は一刻も座視できない深刻な状況にあります。したがって、学校、地域や企業において環境に真摯に取り組む市民を育てる環境教育が緊急の課題です。

本課程は、広く環境に関する知識や方法論を学び、深い環境認識の基にリーダーとしての素養を身につけ、学校や社会など多方面での環境教育・環境保全に関わることができる実践力のある人材を育てることを目的にしています。環境に関する豊富な研究・教育の実績を有する教授陣によって開講される多彩な授業科目を履修することにより、地球、自然、社会、生活、地域、文化、食、住居、保健、衛生、健康、芸術、湖沼、河川、倫理、法律など、地球規模から身近な事象まで、さまざまな環境の

仕組みや問題を広くかつ体系的に学びます。同時に、環境の実態や現状を自ら調査・観測・実験・分析し、環境問題を解決するための実践的手法や技術についても学習します。

これらの広く体系的な知識や方法論を身につけた上で、学生の個別的な関心にあわせて、自然環境、社会環境、健康・生活環境のいずれかの領域についてより深く学べるカリキュラムを設け、多様な環境問題の中から特定のテーマを設定し、現地調査や地域との交流も踏まえて、問題の本質と解決策を徹底的に追及します。さらに、教育学部ならではの多様な教職科目を学ぶことによって、教員免許状や各種資格を取得することが可能であり、将来の学校教員、地域社会や生涯学習での環境学習のリーダー、様々な産業分野でのインストラクターとしての素養を身につけます。

## 4. 履修科目の概要

本学部の教育課程は、全学共通の教養教育科目と課程ごとの専門教育科目からなります。

教養教育科目は、「大学入門科目」「全学共通教養科目」「外国語科目」「体育科目」から構成されています。大学入門科目は、「大学入門セミナー」など4科目からなり大学で学習するにあたり必要な基本的スキルと心構えを身につけます。全学共通教養科目は、人文科学、社会科学、自然科学、特定主題の4分野に多彩で魅力的な科目が開講され、幅広い知識と視野から物事を考える能力を養います。外国語科目は、異文化理解とコミュニケーション能力の育成を、体育科目は、体力づくりや身体管理について学びます。

学校教育教員養成課程では、専門科目は「教員養成基本カリキュラム」「教育参加カリキュラム」「得意分野育成カリキュラム」から構成されています。教員養成基本カリキュラムは、共通教職科目、初等教科内容学と初等教科教育学などからなり、各種教員免許の取得に共通して必要な科目を履修して学校教員としての基礎を身に付けます。教育参加カリキュラムは、教育実習プログラムと教育体験プログラムからなり、実践的な能力の育成のために、子どもとのふれあいや、授業だけでない子どもの学びを理解し作り上げる体験を重視するとともに、教育現場における体験を大学における学習に結びつけるプログラムです。得意分野育成カリキュラムは、各専攻の専門科目で、学問的な見識を身につけるとともに、学校教育における指導力に結びつけることを目標としています。

環境教育課程・環境教育専攻では、コース必修科目を履修したうえで、環境問題や環境教育に関する幅広いアプローチに応じた多彩な科目から選択し、知識や問題意識を深めます。

また両課程とも、少人数教育により学生の課題をもった主体的な学習を促し、卒業論文等を作成する過程を重視しています。

卒業生には、学校教育教員養成課程においては「学士(教育)」、環境教育課程においては「学士(環境)」の学位が与えられます。学校教育教員養成課程では、卒業に必要な単位を修得することにより次の表に示す教員免許状が取得できます。さらに、必要な単位を修得することにより次の表に示す種々の教員免許状が取得できます。所属専攻以外の学校種や教科の免許状の取得も可能です。

教育職員免許状以外に、次の表に示す社会教育主事、学校図書館司書教諭、保育士の所要資格が取得できる授業科目が用意されており、それらの科目を修得することによって資格取得のための試験・講習の一部が免除されます。

課程	コース	専攻	卒業に必要な単位を修得することによって得られる教育職員免許状等	取得可能な教育職員免許状等(*1)
学校教育教員養成課程	初等教育コース	幼児教育専攻	幼稚園教諭1種免許状	幼稚園教諭1種免許状 (学校教育教員養成課程のみ)
		教育文化専攻 学校心理専攻 学校臨床専攻 国際理解教育専攻 初等教科専攻	小学校教諭1種免許状	
	中等教育コース	国語専攻 社会専攻 数学専攻 理科専攻 音楽専攻 美術専攻 保健体育専攻 情報・技術専攻 家庭専攻 英語専攻	中学校教諭1種免許状 教科：国語，社会，数学 理科，音楽，美術， 保健体育，技術，家庭， 英語	中学校教諭1種免許状 教科：国語，社会，数学， 理科，音楽，美術， 保健体育，保健，技術， 家庭，職業指導，英語
障害児教育コース	障害児教育専攻	小学校教諭1種免許状 特別支援学校教諭1種免許状(*3)	特別支援学校教諭1種免許状(*3)	特別支援学校教諭1種免許状(*3) (学校教育教員養成課程のみ)
		中学校教諭1種免許状(*2) 特別支援学校教諭1種免許状(*3)	特別支援学校教諭1種免許状(*3)	保育士 (学校教育教員養成課程のみ)
環境教育課程		環境教育専攻		社会教育主事  学校図書館司書教諭

- 注) \*1. 取得することができる免許状とは、卒業に必要な単位に加えて「教育職員免許法」等に定める所定の単位を修得することによって得られる免許状です。ただし、時間割の編成上すべての者に対して4年間で履修計画が立つよう約束されているものではありません。
- \*2. 取得できる中学校教諭1種の教科は、他の専攻において取得できる中学校1種の教科のうち、いずれかを選択することとなります。
- \*3. 「知的障害者に関する教育の領域」「肢体不自由者に関する教育の領域」「病弱者に関する教育の領域」の3領域です。

## 5. 卒業後の進路

### (1) 学校教育教員養成課程

卒業生は、幼稚園から高等学校までの広い校種の教員になっています。就職する学校の種類は、教員採用試験を受ける際に、能力・適性に応じて自らの意思で決めることができます。また、大学院に進学して専門性を深めたり、学習した分野と関係の深い公務員や企業の一員となり、専門性を生かして活躍する道もあります。

### (2) 環境教育課程

本課程では、教育職員免許状の取得が比較的容易なカリキュラムを採用しているため、環境教育の

専門的知識を活かして学校教員になる道が開かれているほかに、環境政策の立案と実行にかかわる行政機関への就職や、環境関連の企業や企業内で環境問題を担当する部署への就職が考えられます。また今後は、グローバルに活躍する環境N G Oや、地域の環境問題に取り組む環境N P Oに就職する道も開けてくると期待されます。

## 6. 附属研究施設

本学部には、附属研究施設として、教育実践総合センターがあります。教育実践総合センターは、教育実践・情報教育・教育臨床についての理論的・実践的な研究を推進する中核的施設です。附属学校との連携のもとに、教育実習指導の中心的役割を担うとともに、県下の教育関係機関との協力体制を保ちながら、現職教員の研究・研修に寄与しています。

## 7. 附属学校

本学部には、児童・生徒の発達段階に応じて、初等教育、中等教育、障害児教育及び幼児教育を行うとともに、学部における児童・生徒及び幼児の教育に関する研究に協力し、学生の教育実習の実施に協力することを目的として、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校を設置しています。

# 経済学部

## 1. 立地

本学部は、実業界を中心として各界に多数の人材を送ってきた旧制の彦根高等商業学校を前身校とし、緑の多い、美しい風景に囲まれた城下町彦根市に立地しています。金亀城天守閣のそびえる城山のふもと、白鳥の群れ浮かぶ内濠のほとりにあり、学窓からは、東に幾重もの鈴鹿山系の山並、西に琵琶湖のさざ波、南に肥沃な近江平野、北に伊吹山の雄姿が間近に見えます。美しい自然と豊かな文化・歴史環境に恵まれて、思索と心身錬磨の青春時代の一時期を過ごすのに好適の地であるといえるでしょう。また、瀟洒な校舎と数多くの樹木が立ち並ぶキャンパスは、まさに教育・学問の地にふさわしいものです。そのうえ、彦根市は京阪神や中京との交通の便もよく、容易にその文化に接することができます。

## 2. 学部概要

### (1) 学科紹介

本学部は、経済学科・ファイナンス学科・企業経営学科・会計情報学科・情報管理学科及び社会システム学科の6学科から構成され、それぞれに昼間主コースと夜間主コースが置かれています。夜間主コースは、社会人を対象として、主として夜間に授業を行います。(現在夜間の授業は17時45分から開講しています。)

#### ① 経済学科

経済活動は、私たちの暮らしや社会の営みや国際関係にとって切り離すことのできない重要な役割を果たしています。経済学科は、彦根高等商業学校設立以来最も長い学問的蓄積のある学科の一つとして、複雑な経済活動を、理論・歴史・制度・政策といった諸側面から多面的・総合的に分析しています。具体的には、経済社会の仕組みをマクロ的にあるいはミクロ的に捉えたり、経済社会全体の構造を分析する諸理論を学び、市場経済や政府部門の経済活動や経済政策、さらにそうした分野を国際的に捉えて比較検討したり、過去から現代に至る経済活動の発展を歴史的に捉える学問を学びます。

経済学科では、これらの多様な学問を系統的に習得できるよう、経済学の基礎理論をまずしっかり身につけ、順次各部門の専門科目へ進み、複雑な経済現象を総合的に分析・判断できる経済人へと成長していけるようにカリキュラムが組まれています。激動の日本経済・世界経済の中で活躍しようとする学生諸君にグローバルな視野と専門的な経済知識の涵養を約束するのが経済学科です。

#### ② ファイナンス学科

ファイナンス学科は、経済学と経営学の知識をベースとして、科学的なファイナンスの知識と健全なファイナンス・マインド（金融倫理）を身につけたファイナンスの専門家を養成すること

を目的としています。本学科は1991年4月、日本で最初のファイナンスに関する専門的な教育研究組織として、社会の大きな注目を浴びて発足しました。

1990年と1997年のノーベル経済学賞は、ファイナンスに関する研究業績によって米国の経済学者に贈られましたが、現代経済学の中で最も進歩した分野の一つがファイナンスです。ファイナンス学科は財テクの技術を教えるビジネススクールの性格を持ったものではありません。「ファイナンス」は資金の調達と運用に関する総合的分野で、従来の金融経済論、貨幣論、金融機関論、国際金融論、財政論、財務管理論、金融法をも含む現代経済学の新分野でもあります。現実の経済は商品やサービスの取引の背後に資金の流れがあり、ここをしっかりと把握しておかないと経済の真の姿は浮かんできません。

ファイナンス学科は実体経済の実証的分析と理論的分析が二本柱の、可能性を多く持った学科です。

### ③ 企業経営学科

経営学は主として企業が直面する多様な課題を様々な角度から解決することを目指す学問です。たとえば、経営者と労働者の関係、企業、株主、消費者間の関係やそれぞれの行動形態、企業と地域社会との関係、企業を取り巻く国内・国際政治、経済、文化、宗教、自然環境などが企業に与える影響等、企業は絶えず様々な問題に取り組まなければなりません。

この様な課題に一定の方法的考察を加え、体系化をはかるのが経営学の重要な目的なのです。そして、そこから得られた知識の蓄積を基に、企業目的を達成するために、組織、経営戦略、従業員を積極的に仕事に向かわせる誘因、消費者満足の充足等についての理論構築を目指すことが経営学に課された課題と考えられます。

そのため経営学は、経済学、社会学、社会心理学、歴史学、地政学、文化、宗教等の研究成果を取り込んで構築されてきており、いわば学際的な性格をもつ学問だといえます。

経営学を学ぶ人は、絶えず広い視野と鋭い洞察力をもつことが要求されており、企業経営学科は、そのためにもっとも適切と考えられる3つの学習領域を提供しています。

それは、1) 現代の企業経営を形成している基本となるシステム・特に企業者の機能を中心とした領域、2) 応用的・戦略的なレベルから、企業経営が行っている政策的な機能についての領域、さらに3) 数理科学的手法、情報科学的手法を用いた実証分析とその結果に基づいた市場志向的、国際経営的な戦略モデルを扱う領域です。

これら3つの領域を学習することにより経営学を深く理解することができると考えられます。

### ④ 会計情報学科

企業経営にとって重要な「お金の流れ」を中心に理論的・実践的に学びます。会計学の学習では、家計、企業、学校、病院、官庁などさまざまな組織で行われる収支の記録・計算、その結果の報告、解釈の方法などを学ぶことを目的とします。このうち、会計情報学科ではまず将来企業の経営者・管理者や会計のスペシャリストになるために役立つ「企業会計」を中心に勉強します。企業会計においては経営状態を貨幣単位を用いて体系的、かつ計数的に説明します。話し言葉による報告も勿論行われますが、概念論に終始することなく、より実践に役立つ理論や分析力を身につけること、例えば、実際の原価データや財務データを用いた分析手法について学ぶことも可能です。

通常、会計学は財務会計と管理会計に分類されます。企業外部の利害関係者である株主、債権者、税務当局などに対してパフォーマンスを報告するのが「財務会計」です。これに対し、経営管理者が戦略を策定したり、新製品開発、海外進出の計画を立てたり、事後的に業績を評価し管理するために役立つ会計情報システムを構築するのが「管理会計」です。

会計は企業の言語であり、会計をマスターすることはビジネスの世界で成功するための必要条件です。会計専門職（公認会計士、税理士、国税専門官、コンサルタント等）としての道を目指す諸君も、計算処理の意味、会計のカラクリを理解し、新しい問題に直面した場合の問題解決能力を身につけてください。

### ⑤ 情報管理学科

情報技術の進展によって、日々様々な形のデータが発生し、これらデータに基づく客観的な分

析の役割が経営活動においてますます重要になってきています。これらデータは計算機・データベースに時々刻々と蓄えられており、ここから経営活動に役立つ情報を取り出すことは、企業・組織活動にとって重要な課題となっています。身近なものとなったパーソナルコンピュータと国境のないインターネットという情報環境を駆使して、これらのデータを用いて、情報を有効に蓄積・抽出・解析・処理する能力が今問われています。

これらを解決するために、情報管理学科では、システムをモデル化し評価する方法の基礎となる数理的な手法を習得しその応用について考える分野、財務・生産・流通などのシステムに関して発生する諸問題を解析する手法を習得しその応用について考える分野、情報を処理するために必要となる計算機言語や情報処理技術について習得しその応用を考える分野、という3つの分野で講義を行っています。いずれの分野の講義においても理論の使い方だけでなく、その分野の基礎となる事柄から始め、その理論の成り立ちを考察し、さらに現在起こっている諸問題を取り上げ、その解決手法について論じていきます。また、少人数教育となる演習においては最新の情報処理システムを利用し、実際のデータを処理することで、幅広い観点から様々な状況で発生する諸問題を解決できるための応用力を養っていきます。

#### ⑥ 社会システム学科

経済現象は、経済分野のなかで経済問題としてだけ生じるのではなく、社会の他の分野とも深い関連を持っており、問題の性格によっては、経済に関連する様々な知識が不可欠になります。社会システム学科は、経済学部の中にありながら、経済そのものというよりも経済と他分野との「関係」に関する研究・教育を行っています。したがって、経済・社会・法・政治を学ぶ社会科学、言語や歴史文化を学ぶ人文科学、自然やコンピュータを学ぶ自然科学など、幅広い分野を研究対象としています。これら複数の学問分野に触れることで、それぞれの分野での高度な専門知識と、その土台となる教養を修得します。同時に社会の構造や関係のシステムティックな理解を通じて、現代社会の様々な出来事を総合的に読み解くための応用力を養っていきます。

社会システム学科は、以下の4つの講座から構成されています。

[社会システム講座]

社会、政治、行政、消費、環境等々の分野における人々の行動やその全体構造に焦点を当て、現代社会を読み解くための基礎理論を学びます。

[法システム講座]

人々の権利・義務の関係に焦点を当て、契約関係、雇用関係、租税といった様々な課題を法律の観点から学びます。

[思考情報システム講座]

経済や社会を構成する基本単位である人間の「知」のあり方について多角的に学びます。ひとの「心・技・体」の研究が中心となっています。

[国際文化システム講座]

世界の中の様々な地域・社会について言語・文化や歴史の観点から学びます。

#### (2) 柔軟な教育システム

本学部では、以上のような各学科の特色を反映させつつ、国立大学法人の経済学部としては最大規模の6学科、100名を超える教員スタッフという恵まれた環境を、広い教養と国際的視野の涵養に活かすために、学科の枠を越えた自由な科目選択を認めています。ほとんどすべての科目や演習は、どの学科の学生でも履修することが可能であり、学生の多様な関心や、入学後の学習・進路希望の変化にも柔軟に対応しうる総合的な教育システムとなっています。また、学科を問わず「経済学部で」学ぶ中核となる科目については「コア科目」として一定程度以上の修得を義務づけています。同時に、学科横断的ないくつかの「専門コース」を設定し、学生の体系的な履修をうながしています。

### 3. 卒業

いずれの学科及びいずれのコースに属していても、本学部の卒業生には、「学士（経済学）」の学位が授与されます。

## 4. 教員免許状

本学部において、所定の単位を修得することにより、中学校教諭の一種免許状（社会）及び高等学校教諭の一種免許状（商業、地理歴史、公民、情報）が取得できます。

ただし、夜間主コースの学生にあっては、所定の単位の一部を昼間の授業時間帯で修得しなければなりません。

なお、教職科目は教育学部で履修する必要があります。

## 5. 卒業生の活動

卒業生は、旧制彦根高等商業学校時代からの89年の伝統を受け継ぎ、各方面で活躍しています。大多数の者は、金融・保険・商業・製造業等を中心に全国的規模で経済界に進出し活躍していますが、官公庁・教育界・学界へも進出しています。

なお、本学には大学院経済学研究科博士前期課程（経済学専攻、経営学専攻及びグローバル・ファイナンス専攻）及び博士後期課程（経済経営リスク専攻）が設置されており、学部卒業後、進学之道が開かれています。

## 6. 諸施設の事業と利用

- (1) 「滋賀大学経済経営研究所」は、経済学部の教員の研究サポートと研究成果の発信をしています。学生の皆さんと研究者である教員が同じ話題で議論できる場所として「経済学部ワークショップ」「経済学部講演会」「経済学部フォーラム」「定例研究会」の開催を行っています。ここで報告され研究を深めた著作は、『彦根論叢』『滋賀大学経済学部年報』『ワーキング・ペーパー』『滋賀大学経済学部研究叢書』という経済経営研究所が編集する刊行物に掲載されます。これらは、経済経営研究所のホームページから読むこともできます。また、夏休みには「学生懸賞論文」の募集もあり、学生の皆さんの普段の研究成果をためすことができます。
- (2) 「滋賀大学経済学部附属史料館」は、近江を中心とした地域の社会文化史・経済史・経営史に関する史資料の調査・収集と整理・保管を行っています。収蔵史料は、古文書・古記録約160,000点、民俗資料約1,000点におよび、これらの中には国の重要文化財に指定されている中世史料や、近江商人史料など貴重なものが多く含まれています。収蔵史資料は一般の方でも閲覧が可能で、常設展示や春秋年2回の企画展示でも随時公開しています。これらの史資料を活用した研究成果は、『研究紀要』『収蔵史料目録』を毎年刊行して発表しています。また、日本史や近江の歴史関係の書籍も多く架蔵しており、こちらも閲覧可能です。

付表 1

## 平成23年度 滋賀大学入学者選抜資料

## 教育学部

## (一般入試)

入試区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)	
前期 日程	課程別	学校教育教員養成課程	97	362 (193)	3.7	351 (189)	3.6	107 (58)	3.3	104 (56)
		情報教育課程	20	55 (25)	2.8	52 (22)	2.6	24 (9)	2.2	22 (8)
		環境教育課程	18	65 (37)	3.6	60 (35)	3.3	20 (12)	3.0	18 (11)
		計	135	482 (255)	—	463 (246)	—	151 (79)	—	144 (75)
	選択 科目	学校・文系型	47	199 (111)	4.2	193 (108)	4.1	52 (30)	3.7	50 (28)
		学校・理系型	30	72 (29)	2.4	70 (29)	2.3	33 (14)	2.1	33 (14)
		学校・面接	7	15 (11)	2.1	15 (11)	2.1	7 (6)	2.1	7 (6)
		学校・音楽	4	13 (12)	3.3	12 (11)	3.0	4 (4)	3.0	4 (4)
		学校・美術	4	8 (6)	2.0	8 (6)	2.0	4 (3)	2.0	4 (3)
		学校・体育	5	55 (24)	11.0	53 (24)	10.6	7 (1)	7.6	6 (1)
		情報・文系型	10	28 (14)	2.8	26 (12)	2.6	12 (8)	2.2	10 (7)
		情報・理系型	10	27 (11)	2.7	26 (10)	2.6	12 (1)	2.2	12 (1)
		環境・文系型	9	23 (13)	2.6	21 (11)	2.3	10 (5)	2.1	8 (4)
環境・理系型	9	42 (24)	4.7	39 (24)	4.3	10 (7)	3.9	10 (7)		
計	135	482 (255)	—	463 (246)	—	151 (79)	—	144 (75)		
後期 日程	課程別	学校教育教員養成課程	26	223 (123)	8.6	96 (54)	3.7	26 (11)	3.7	23 (10)
		情報教育課程	6	167 (68)	27.8	78 (30)	13.0	8 (5)	9.8	7 (5)
		環境教育課程	6	62 (27)	10.3	27 (11)	4.5	8 (3)	3.4	8 (3)
		計	38	452 (218)	—	201 (95)	—	42 (19)	—	38 (18)
一般入試合計		173	934 (473)	—	664 (341)	—	193 (98)	—	182 (93)	

## 教育学部

## (推薦入試)

入試区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)	
一般 推薦	課程別	教育文化コース	2	9 (6)	4.5	9 (6)	4.5	2 (2)	4.5	2 (2)
		学校心理コース	2	20 (16)	10.0	20 (16)	10.0	2 (2)	10.0	2 (2)
		学校臨床コース	2	8 (5)	4.0	8 (5)	4.0	2 (2)	4.0	2 (2)
		幼児教育コース	3	33 (32)	11.0	33 (32)	11.0	3 (3)	11.0	3 (3)
		障害児教育コース	3	7 (6)	2.3	7 (6)	2.3	3 (3)	2.3	3 (3)
		メディア教育コース	2	3 (3)	1.5	3 (3)	1.5	2 (2)	1.5	2 (2)
		国際理解教育コース	2	11 (6)	5.5	11 (6)	5.5	2 (2)	5.5	2 (2)
		地域学習コース	2	8 (5)	4.0	8 (5)	4.0	2 (2)	4.0	2 (2)
		言語教育コース 書道実技	2	8 (7)	4.0	8 (7)	4.0	2 (2)	4.0	2 (2)
		言語教育コース 英語リスニング	2	10 (6)	5.0	10 (6)	5.0	2 (1)	5.0	2 (1)
		社会科教育コース	3	16 (7)	5.3	16 (7)	5.3	3 (1)	5.3	3 (1)
		理数教育コース	4	28 (8)	7.0	28 (8)	7.0	5 (1)	5.6	5 (1)
		生活・技術教育コース 区分A	4	8 (6)	2.0	8 (6)	2.0	4 (3)	2.0	4 (3)
		生活・技術教育コース 区分B	2	4 (1)	2.0	4 (1)	2.0	2 (0)	2.0	2 (0)
		芸術表現教育コース 音楽実技	2	3 (3)	1.5	3 (3)	1.5	2 (2)	1.5	2 (2)
		芸術表現教育コース 美術実技	2	6 (5)	3.0	6 (5)	3.0	2 (1)	3.0	2 (1)
	体育・健康教育コース	2	14 (7)	7.0	14 (7)	7.0	2 (1)	7.0	2 (1)	
	小計	41	196 (129)	—	196 (129)	—	42 (30)	—	42 (30)	
	情報 教育 課程	文化情報コース	2	9 (1)	4.5	9 (1)	4.5	2 (1)	4.5	2 (1)
		理数情報コース	2	5 (1)	2.5	5 (1)	2.5	2 (0)	2.5	2 (0)
小計		4	14 (2)	—	14 (2)	—	4 (1)	—	4 (1)	
環境教育課程	4	13 (8)	3.3	13 (8)	3.3	4 (3)	3.3	4 (3)		
合計	49	223 (139)	—	223 (139)	—	50 (34)	—	50 (34)		
地域 推薦	学校教育教員養成課程	16	71 (47)	4.4	71 (47)	4.4	18 (14)	3.9	18 (14)	
	情報教育課程	—	—	—	—	—	—	—	—	
	環境教育課程	2	1 (1)	0.5	1 (1)	0.5	1 (1)	1.0	1 (1)	
	合計	18	72 (48)	—	72 (48)	—	19 (15)	—	19 (15)	
推薦入試合計		67	295 (187)	—	295 (187)	—	69 (49)	—	69 (49)	

注) 1. 志願者及び受験者数は第1志望による。

2. ( )は女子で内数

教育学部 (帰国子女・社会人)

入試区分	コース等	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)	
帰国子女	学校教育員養成課程	教育文化コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)	0 (0)	
		学校心理コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)	0 (0)	
		学校臨床コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)	0 (0)	
		幼児教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)	0 (0)	
		障害児教育コース	—	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1.0	0 (0)
		メディア教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		国際理解教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		地域学習コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		言語教育コース・書道	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		言語教育コース・英語	—	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1.0	0 (0)
		社会科教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		理数教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		生活・技術教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		芸術表現教育コース・音楽	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		芸術表現教育コース・美術	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
	体育・健康教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
	小計	若干名	2 (2)	—	2 (2)	—	2 (2)	—	0 (0)	
	情報教育課程	文化情報コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		理数情報コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		小計	若干名	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
環境教育課程	若干名	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
合計	若干名	2 (2)	—	2 (2)	—	2 (2)	—	0 (0)		
社会人	学校教育員養成課程	教育文化コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)	0 (0)	
		学校心理コース	—	1 (0)		1 (0)		0 (0)		0 (0)
		学校臨床コース	—	6 (2)		5 (2)		2 (1)	2.5	2 (1)
		幼児教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		障害児教育コース	—	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1.0	1 (1)
		メディア教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		国際理解教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		地域学習コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		言語教育コース	—	1 (0)		1 (0)		0 (0)		0 (0)
		社会科教育コース	—	1 (0)		1 (0)		0 (0)		0 (0)
		理数教育コース	—	1 (0)		1 (0)		0 (0)		0 (0)
		生活・技術教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		芸術表現教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		体育・健康教育コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		小計	若干名	11 (3)	—	10 (3)	—	3 (2)	—	3 (2)
	情報教育課程	文化情報コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		理数情報コース	—	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		小計	若干名	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)	—	0 (0)
	環境教育課程	若干名	2 (1)		2 (1)		2 (1)	1.0	2 (1)	
	合計	若干名	13 (4)	—	12 (4)	—	5 (3)	—	5 (3)	
特別入試合計		67	310 (193)	—	309 (193)	—	76 (54)	—	74 (52)	
課程合計	学校教育教員養成課程	180	865 (497)	4.8	726 (424)	4.0	198 (117)	3.7	190 (112)	
	情報教育課程	30	236 (95)	7.9	144 (54)	4.8	36 (15)	4.0	33 (14)	
	環境教育課程	30	143 (74)	4.8	103 (56)	3.4	35 (20)	2.9	33 (19)	
教育学部 合計		240	1,244 (666)	—	973 (534)	—	269 (152)	—	256 (145)	

注) 1. 志願者及び受験者数は第1志望による。

2. ( )は女子で内数

平成23年度 滋賀大学入学者選抜資料（合格者の試験成績）

教育学部

入試 区分	課程・コース等		総合得点				大学入試センター試験傾斜済合計得点			
			配点合計	平均点	最高点	最低点	配点合計	平均点	最高点	最低点
前 期 日 程	学校教育教員養成課程	文系型	1,300	895.5	982.0	861.8	900	639.2	692.0	585.0
		理系型	1,300	863.2	993.8	802.6	900	631.6	707.0	551.6
		面接	1,300	864.2	—	—	900	599.8	—	—
		音楽	1,300	800.4	—	—	900	516.4	—	—
		美術	1,300	866.7	—	—	900	574.0	—	—
		体育	1,300	845.1	—	—	900	595.5	—	—
	情報教育課程	文系型	1,300	852.2	861.4	845.2	900	615.0	658.4	582.2
		理系型	1,300	790.5	802.2	778.6	900	590.2	645.6	554.4
	環境教育課程	文系型	1,300	857.8	—	—	900	620.1	—	—
		理系型	1,300	830.9	—	—	900	594.1	—	—
後 期 日 程	学校教育教員養成課程		1,100	787.4	904.4	743.6	900	660.3	762.4	607.6
	情報教育課程		800	612.7	—	—	600	454.9	—	—
	環境教育課程		1,100	769.8	—	—	900	622.0	—	—
一 般 推 薦	学校教育教員養成課程	教育文化コース	300	—	—	—				
		学校心理コース	300	—	—	—				
		学校臨床コース	300	—	—	—				
		幼児教育コース	300	224.7	—	—				
		障害児教育コース	300	222.0	—	—				
		メディア教育コース	300	—	—	—				
		国際理解教育コース	300	—	—	—				
		地域学習コース	300	—	—	—				
		言語教育コース 書道実技	300	—	—	—				
		言語教育コース 英語リスニング	300	—	—	—				
		社会科教育コース	300	203.7	—	—				
		理数教育コース	300	221.8	—	—				
		生活・技術教育コース 区分A	300	227.0	—	—				
		生活・技術教育コース 区分B	300	—	—	—				
		芸術表現教育コース 音楽実技	300	—	—	—				
	芸術表現教育コース 美術実技	300	—	—	—					
	体育・健康教育コース	300	—	—	—					
	情報教育課程	文化情報コース	300	—	—	—				
理数情報コース		300	—	—	—					
環境教育課程		300	222.8	—	—					
地 域 推 薦	学校教育教員養成課程		200	155.8	160.0	153.0				
	環境教育課程		200	—	—	—				
婦 女 学 生	学校教育教員養成課程	障害児教育コース	300	—	—	—				
		言語教育コース・英語	300	—	—	—				
社 会 人	学校教育教員養成課程	学校心理コース	200	—	—	—				
		学校臨床コース	200	—	—	—				
		障害児教育コース	200	—	—	—				
		言語教育コース	200	—	—	—				
		社会科教育コース	200	—	—	—				
	理数教育コース	200	—	—	—					
環境教育課程		200	—	—	—					
私 費 外 国 人 留 学 生	学校教育教員養成課程		700	522.5	—	—				
	情報教育課程		700	—	—	—				
	環境教育課程		700	528.3	—	—				

注) 1. 募集単位の合格者が3人未満の場合は試験成績（最高点、最低点、平均点）は情報開示しません。  
 2. 募集単位の合格者が3人以上10人以下の場合は試験成績のうち最高点、最低点は情報開示しません。

平成23年度 滋賀大学入学者選抜資料

経済学部（昼間主コース）

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)	
一般入試	前期	経済学科	70	297 (60)	-	274 (56)	-	90 (20)	-	76 (15)
		ファイナンス学科	24	119 (26)		105 (26)		32 (8)		26 (5)
		企業経営学科	32	190 (53)		174 (51)		41 (15)		34 (12)
		会計情報学科	22	84 (26)		77 (25)		28 (12)		18 (10)
		情報管理学科	24	61 (16)		53 (14)		32 (8)		25 (8)
		社会システム学科	28	100 (47)		93 (43)		36 (16)		27 (13)
		小計	200	851 (228)	-	776 (215)	-	259 (79)	-	206 (63)
		選択科目 国語・外国語	100	539 (145)	5.4	480 (135)	4.8	138 (53)	3.5	103 (39)
		選択科目 数学・外国語	100	312 (83)	3.1	296 (80)	3.0	121 (26)	2.4	103 (24)
	後期	経済学科	84	889 (185)	-	429 (84)	-	118 (24)	-	83 (18)
		ファイナンス学科	29	383 (91)		189 (53)		42 (11)		33 (7)
		企業経営学科	38	495 (139)		250 (81)		53 (20)		38 (14)
		会計情報学科	26	212 (72)		100 (35)		37 (14)		25 (12)
		情報管理学科	29	141 (41)		85 (22)		41 (12)		32 (10)
社会システム学科		34	304 (143)	158 (76)		49 (19)		37 (15)		
小計		240	2,424 (671)	-	1,211 (351)	-	340 (100)	-	248 (76)	
選択科目 国語・外国語		117	1,299 (391)	11.1	695 (213)	5.9	162 (57)	4.3	119 (45)	
選択科目 数学・外国語	123	1,125 (280)	9.1	516 (138)	4.2	178 (43)	2.9	129 (31)		
一般入試合計	440	3,275 (899)	-	1,987 (566)	-	599 (179)	-	454 (139)		

特別入試	帰国子女	経済学科	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	0.0	0 (0)
		ファイナンス学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		企業経営学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		会計情報学科	-	1 (0)		1 (0)		0 (0)		0 (0)
		情報管理学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		社会システム学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		小計	若干名	1 (0)		-		1 (0)		-
	社会人・昼	経済学科	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	1.0	0 (0)
		ファイナンス学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		企業経営学科	-	1 (0)		1 (0)		1 (0)		0 (0)
		会計情報学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		情報管理学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		社会システム学科	-	0 (0)		0 (0)		0 (0)		0 (0)
		小計	若干名	1 (0)		-		1 (0)		-

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (一次選考) (c)	合格者数 (一次選考) (d)	(c)/(d)	受験者数 (二次選考) (e)	合格者数 (二次選考) (f)	(e)/(f)	入学者数 (g)	
特別入試	推薦入学A	経済学科	13	40 (12)	2.4	40 (12)	19 (7)	2.0	19 (7)	19 (7)	1.0	19 (7)
		ファイナンス学科	5	7 (1)		7 (1)	2 (1)		2 (1)	2 (1)		
		企業経営学科	6	28 (16)		28 (16)	16 (9)		16 (9)	16 (9)		
		会計情報学科	5	5 (3)		5 (3)	3 (2)		3 (2)	3 (2)		
		情報管理学科	5	3 (2)		3 (2)	1 (0)		1 (0)	1 (0)		
		社会システム学科	6	14 (10)		14 (10)	7 (5)		7 (5)	7 (5)		
	小計	40	97 (44)	-	97 (44)	48 (24)	-	48 (24)	48 (24)	-	48 (24)	
	推薦入学B	経済学科	8	15 (4)	4.2	15 (4)	5 (3)	3.2	5 (3)	5 (3)	1.0	5 (3)
		ファイナンス学科	2	5 (1)		5 (1)	1 (0)		1 (0)	1 (0)		
		企業経営学科	4	35 (22)		35 (22)	8 (6)		8 (6)	8 (6)		
		会計情報学科	2	14 (8)		14 (8)	6 (3)		6 (3)	6 (3)		
		情報管理学科	2	11 (6)		11 (6)	4 (3)		4 (3)	4 (3)		
		社会システム学科	2	3 (1)		3 (1)	2 (1)		2 (1)	2 (1)		
	小計	20	83 (42)	-	83 (42)	26 (16)	-	26 (16)	26 (16)	-	26 (16)	
推薦入試合計	60	180 (86)	-	180 (86)	74 (40)	-	74 (40)	74 (40)	-	74 (40)		
特別入試合計	60	182 (86)	-	182 (86)	74 (40)	-	74 (40)	75 (40)	-	74 (40)		

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
学科別計	経済学科	175	1,241 (261)	-	758 (156)	-	232 (54)	-	183 (43)
	ファイナンス学科	60	514 (119)		306 (81)		77 (20)		62 (13)
	企業経営学科	80	749 (230)		488 (170)		119 (50)		96 (41)
	会計情報学科	55	316 (109)		197 (71)		74 (31)		52 (27)
	情報管理学科	60	216 (65)		152 (44)		78 (23)		62 (21)
	社会システム学科	70	421 (201)		268 (130)		94 (41)		73 (34)
経済学部(昼)合計	500	3,457 (985)	-	2,169 (652)	-	674 (219)	-	528 (179)	

注) 1. 志願者数及び受験者数は第1志望による。

2. ( )は女子で内数

経済学部（夜間主コース）

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)	
特別入試 社会人・夜一種	経済学科	4	2 (0)	0.5	2 (0)	0.5	1 (0)	1.3	1 (0)	
	ファイナンス学科	3	1 (0)		1 (0)		1 (0)		0 (0)	
	企業経営学科	3	3 (0)		3 (0)		1 (0)		1 (0)	
	会計情報学科	3	0 (0)		0 (0)		1 (0)		1 (0)	
	情報管理学科	3	1 (1)		1 (1)		1 (1)		0 (0)	
	社会システム学科	4	2 (1)		2 (1)		2 (1)		2 (1)	
	小計	20	9 (2)	—	9 (2)	—	7 (2)	—	5 (1)	
	特別入試 社会人・夜二種	経済学科	5	17 (3)	3.4	16 (3)	3.0	9 (1)	1.8	9 (1)
		ファイナンス学科	5	8 (0)		8 (0)		9 (3)		8 (3)
		企業経営学科	5	29 (9)		24 (7)		8 (2)		7 (2)
		会計情報学科	5	23 (7)		18 (6)		10 (4)		9 (4)
情報管理学科		5	11 (3)	10 (2)		6 (1)		6 (1)		
社会システム学科		5	14 (9)	13 (8)		8 (6)		8 (6)		
小計		30	102 (31)	—	89 (26)	—	50 (17)	—	47 (17)	

入試区分	学科	入学定員 (a)	志願者数 (b)	(b)/(a)	受験者数 (c)	(c)/(a)	合格者数 (d)	(c)/(d)	入学者数 (e)
学科別計	経済学科	9	19 (3)	—	18 (3)	—	10 (1)	—	10 (1)
	ファイナンス学科	8	9 (0)		9 (0)		10 (3)		8 (3)
	企業経営学科	8	32 (9)		27 (7)		9 (2)		8 (2)
	会計情報学科	8	23 (7)		18 (6)		11 (4)		10 (4)
	情報管理学科	8	12 (4)		11 (3)		7 (2)		6 (1)
	社会システム学科	9	16 (10)		15 (9)		10 (7)		10 (7)
経済学部（夜）合計	50	111 (33)	—	98 (28)	—	57 (19)	—	52 (18)	

注) 1. 志願者数及び受験者数は第1志望による。

2. ( )は女子で内数

平成23年度 滋賀大学入学者選抜資料（合格者の試験成績）

経済学部（昼間主コース）

入 試 区 分			総 合 得 点				大学入試センター試験傾斜済合計得点			
			配点合計	平均点	最高点	最低点	配点合計	平均点	最高点	最低点
前期日程	国語・外国語型	A方式	900	642.2	701	618	500	383.4	424	335
		B方式	1,300	888.0	995	841	900	636.0	715	559
	数学・外国語型	A方式	900	605.8	753	571	500	366.2	435	312
		B方式	1,300	882.4	1,021	838	900	645.2	749	555
後期日程	国語・外国語型	A方式	1,500	952.0	1,153	889	500	380.6	428	313
		B方式	1,900	1,216.6	1,475	1,122	900	652.9	758	559
	数学・外国語型	A方式	1,500	999.1	1,216	915	500	367.6	423	281
		B方式	1,900	1,286.4	1,546	1,182	900	659.8	761	560
推薦入学 注3参照	A推薦		100	55.7	69	49				
	B推薦		100	57.8	68	52				
帰国子女			1,000	—	—	—				
社会人			1,000	—	—	—				
私費外国人留学生			1,520	1,224.3	1,275	1,186				

経済学部（夜間主コース）

入 試 区 分			総 合 得 点			
			配点合計	平均点	最高点	最低点
社会人	1種		900	577.1	—	—
	2種		900	594.2	722	530

- 注)1. 募集単位の合格者数が3人未満の場合は試験成績(最高点, 最低点, 平均点)は情報開示しません。  
 2. 募集単位の合格者が3人以上10人以下の場合は試験成績の内最高点, 最低点は情報開示しません。  
 3. 推薦入試は第1次選考合格者の試験成績です。



## 入学者選抜に関する問い合わせ先

担当係（窓口）	所在地	電話番号
入試課 入学試験係	〒522-8522 彦根市馬場一丁目1番1号	0749（27）1023
教育学部 入学試験係	〒520-0862 大津市平津二丁目5番1号	077（537）7711

## オープンキャンパスについて

受験生，保護者，高校等の進路指導担当者を対象としたオープンキャンパスを次のとおり開催します。  
実施内容等詳しくは入試情報ホームページに掲載しています。

教育学部 平成23年7月30日（土）10時00分～15時00分

経済学部 平成23年8月6日（土）10時00分～15時30分

## 入試情報サービス

滋賀大学では、入試に関する情報を提供しています。

入試情報ホームページ <http://welcome.biwako.shiga-u.ac.jp/>

携帯電話サイト <http://daigakuic.jp/shiga-u/>

QRコード

※対応する携帯電話で  
読み取れます。



提供する入試情報の主な内容及び時期（予定）は次のとおりです。

- 6月中旬～8月上旬 オープンキャンパスの開催について
- 7月中旬～1月下旬 入学者選抜の概要，学生募集要項及び大学案内の請求方法
- 11月初旬～12月下旬 推薦入試，帰国子女入試，社会人入試の出願状況及び合格速報
- 1月下旬～2月上旬 一般入試出願状況
- 2月中旬～3月下旬 一般入試の実施と合格速報
- 3月28日～3月31日 追加合格実施の有無について



